

野津原方言集

続編二



目次	A 1
はじめに	A 3
◇ 方言文化《子供の遊び》		
陣屋とり 縄とび	1
石けり 陣とり 穴いれ	
コマ打ち	2
ゴマ 鉄砲 オサシ	
お医者さんごっこ	3
かくれ鬼 当てくらべ	
テマリ ハネツキ 瓶われ	4
ワナかけ 川ほし	
ジョウラン取り	5
ママゴト カニ釣り	
人形さんごっこ	6
ビーロン ウチ 宝さがし	
トリモチ オリバナ	7
あやとり 子守 小屋炊き	8
虫つり 蟻よび 柱松 笛	
輪まわし 小刀	9
亥の子 名月 川まつり	10
◇ 方言文化《生活》		
包む	11
ハカリ売り	13
飢饉	16
便所	18
イロリ	19
水車	20
◇ 米価のうつりかわり	21
◇ 思いであれこれ		
纫すりすんで	23
餅あれこれ	24
◇ 方言芝居		
親子の場	26
★ お粥あれこれ	28
惚れ地蔵	29
◇ 舞台劇		
苦労は楽のはじまり	30
流した汗は人生の糧	34
★ 初夢たのしや	36
情けは人の為ならず	37
◇ 野津原の盆踊り歴史	39
◇ ちょつといっぶく	44
◇ 古い唄 新しい歌		
七瀬川哀歌	48
幻想 祭りばやし	49
春宵一刻 土の香り	50
明治 大正 大分県	51
領地の民は今も尚	
あげん唄こげん歌	52
◇ こじつけことば	53
◇ 方言放談		
お医者さん困った	55
ほんな方言じ	56
◇ 心に残る方言		
艶かしい話	60
遊びこんな	61
借りた傘は	63
手ぶたおことわり	64
漬け物んの味は	65

◇ 五助馬子唄街道ばなし	◇ 伝承民話実話
占いが誠になった…………… 6 7	でけもん神様…………… 9 0
火まわり酒…………… 6 8	手足荒神…………… 9 0
ほら穴の宝物…………… 6 9	洪水に残った家…………… 9 1
キツネに化かされた五助… 7 0	久住山系の寺…………… 9 1
渋柿焼き柿…………… 7 1	戦中疎開…………… 9 2
故郷はいいもん…………… 7 3	山峰経塔…………… 9 3
水車んリズム…………… 7 3	法泉寺橋…………… 9 3
◇ 方言放談《No.2》	心まで貧しくなるな………… 9 4
つながる言葉…………… 7 6	痒い所に手が…………… 9 5
体に関わる方言…………… 8 0	踊り伝えた影の人…………… 9 6
◇ 心に残る方言	即身成仏…………… 9 7
ハリコミナーエ…………… 8 3	盗人に厳しい掟…………… 9 7
ショワーネーナ…………… 8 4	お接待施し…………… 9 8
クルワルル…………… 8 5 ◇	米つくりの記録
ナンデ ゴメンナ…………… 8 6	記録表…………… 9 9
オカンノンサマ…………… 8 7	あとがき…………… 1 0 1

方言調査会…甲斐英行 利光節子 佐藤吉晴 小野寿祐 佐藤源治
 那須政子 赤星ヨシミ
 調査編集…利光節子 佐藤吉晴 赤星ヨシミ
 広報カット…那須政子 監修製本…小野寿祐 プリント…佐藤源治

発行 野津原方言調査会 甲斐英行…野津原町今市小原
 《☎097…589…2807》

◇◇◇◇◇◇◇ 平成11年10月30日発行 ◇◇◇◇◇◇◇

事務局…野津原町本町3 《☎…097…588…0092》

『雨が降りだしたよ』…普通はこう言うが 方言じゃ『雨が降り
でーたで…』『降りよるがなー…』『降っちょるけんど…』と何か
雨に関わる言葉を待つような 優しいものがあると都会かる移転し
た 若い主婦は話しちよつた。

◇ 雨が降ると困る事はねーか、心配
せんでんいいか、すぐシチョカニャナラン仕事
あなかったか、濡れもんはないんか、明日も降
ってんいいんか。ち 思う反面じ待つちよつた
んか、いい按配に降りでーたんか、降る前に取
りくーじよつたんか、降っちょ都合ゆう撒か
るるんか、……なんか言葉一つにん情愛が暖
かみがこめられちよる。

ある町じゃ方言ぬ使うち俳句やら短歌を作る…お年寄
りも多ゅうなつたき 方言ぬ取り入るる事じ 言葉ん
悪い面も面白いのが増しち オギノーチクルル
とか。方言のよさが出ちきた。

言葉は美しゅう正しゅう使うにこしたこたーねーが
こん頃は言葉が乱れチョンノモ時勢の影響とん
言う。気持ちゅ伝ゆる言葉がのうなつたんか。
美しい日本語を未来に残すこたぁ とてん大事
な事じゃが。使い方に問題がある面も覗かせ
ちよる。『すごい』 がテンションシヨつ
くのん 若い世代ん意見ち言うんか。

節約言葉も多うなつたごたる…気持ち悪い
キモイ。難しいムズイ。なんかわ相手に失
礼にナルンジャナカロウカ。受付ん人が返
事うすんに『フン フン』 孫が『ハイ』ち言
わんじ『ウン』 ち言う。言葉はソンシノ人
格う現すち言う人もあつた。そうかち思
うとヤタラ『お』をつくるしも…料理なん
かじ おダイコン お魚 お肉 お豆 おカ
ンラン トまあおおごちーなっちシモウ
タ。

教科書にもロマンと偏重に惑わさるることじ学生もどげな思いを内蔵しち しまうんか知れん。

自分がスコドンナじ財布落とした。店先じ『どっかなかったじゃろうか』そこまじゃいいけんども後じ自分が勘違いじ見つけでた。すぐあつたぬー知らするだけん心くぼりが せんままじゃき店んしも気持ち悪い。チョコット『ありました』せん一言が 皆を明るう和まするに。

店んしん気持ちちやどげーなつち思ふ。信用問題にもなるに。こげんしが多うなつたんも時代ん波じゃち 思いとうはねーけんども。※ 新聞投稿の声から利用させてもらいました。

続編No.2には『方言文化』としち 特に子供の遊びん世界をヨキイ取り上げました。身近な生活文化も集めてあります。

- ★ 思いでの日記風にした 民話 実話に続いて 方言芝居と舞台劇を途場させち 人情の暖もりゅうを舞台を通じち。
- ★ 野津原ん盆踊りん流れは 途中の戦後に発足した『七瀬舞踊団』なんかも 合流しち長え間大事に育つた 故郷ん踊り。
- ★ 古い唄 新しい歌じゃ 野津原う題材にしち作詞した数々ん歌詞を並べち。
- ★ 方言放談にゃ お医者さんと年寄り患者さんとんやり取り。日常使う方言の暖かさが お医者に伝わる言葉のあや。
- ★ 心に残る方言と 馬子五助ん街道ばなしかる 民話 実話 いつまでん大事にしちよきて一方言なんかも つづっちらりますき。まゝ暇ん時い読んじょくれ。そしちいろいろ聞かせちください。

方言文化

こども
生活



けいすけ

子供の遊び文化

子供は子供なりの遊びや喧嘩を通じて 生活文化の中にある子供の世界を体験 勉強しよる。大けん子供がする事を真似したり見る事じ 自分なりの工夫をしち大けな発見もする。悪い事はすぐ大けなもんから 止められるのも判断力を養いさせらるる。小めえ子の痛みも自分の体験と 大きい子供たちからん教えじ覚ゆる。

そげな子供の世界には身の回りの道具で 遊ぶ子供文化がある。上手に使い時には宝物にもなる遊び道具。じゃけん物を大事にもする気持ちが育つ。着物んフセもオサガリもちっとん 卑下もせんしおかしいとも思わん。きちんと洗ってあればそれじ上等。子供には素朴な景色に溶けこむ姿がゆう似合う。

ほんなどげな遊びがあるんか…五助さんが話す素振りには子供ん世界が開けた。★ 陣屋とり…何人かに別れち陣屋を持つ《基地拠点》そこかる飛び出て相手を触ると勝ちで虜にする。然し自分より後に出た相手から触られると 反対に虜になって連れて行かれる。虜になった者は相手の陣屋から手を繋いで延ばし 連れにくるのを待つ。相手の隙を見てその先端の味方に触れると 全部救済した事になるが 直前に相手から触られると虜。そげな作戦で勝負が決まるが見つからぬように 救済に行くんがこの遊びの面白さで学校の校庭で生徒の遊びの中を巧みに 動く知能も培う。

★ 段々飛び…両方でゴム紐をもっち他の者が飛び越ゆる。段段高うして飛ぶときに足がひっかかったらゴム紐持ちを交替する。飛び方じゃ両手ついち逆立ち飛び 片足だけ飛び越ゆりゃいいとかそん時ん 決むるき負けんごつ飛ばんとねんじゅ持ち番になつちしまう。いつまでん飛ばれんじ持ち番の子にゃ 皆じ抱えち越しちゃるぬ見ると ええらしいもんじゃつた。

★ 石けり…石一つが遊び道具。直経30センチぐれーん丸を10ぐれー並べち書く。5番目と10番目ぐれーにゃ横に2つ並べち書く。始めん所かゝる一番に石を投げこむ 入ったらそれは飛び越えち片足で順番に10まで。途中の5は両足ついてんいい。終りん10番は片足じ入っち後ろ向く。帰りも片足で2番に来たら片足で1番の石を取る。次は2番に石を入れてくり返す。もし線を踏んだり石が入らんと交替する。

2人以上の時にゃ石が幾つも入っちよるき 全部越えるこち一なっち段々難しうなる。途中で挟まると帰りに取るのも難しいわな。相手の石が入っちよると入られんき。★ 陣取り…直経1M位ん円をジャンケンじ勝ったもんが親指を起点に 半径で自分の陣地を取る。相手が取った所にゃ入れんき早う上手に 取らんと押し込められちしまう。早うく大きう取ったが勝ち。

★ 穴入れ…ドングリ ビーロンなんかじ投げこむ穴を作る。距離は2M間隔ぐれーじ うまく入ったら次に進める。入らんとそこじ待機して次ん者が進む。全部入ったらこんだ一相手を当てち 当たったら貫いだす。取られたら他の玉で回るが全員が出たら終わり。※ こん頃はオトシ《ポケット》にゃヒョンヒョングリ《クヌギなんかの実》なんかが いっぱい入っちよつた。

★ ゴマ打ち…ゴマの先が平とうなっちなげかけち 相手を倒すと勝ち。当たるとはじき飛ばしちアゲクニャどうかすりゃ 割れたりしたもんじゃ。エンナワがゆう巻きつくと投げた拍子にうなつち舞うきキショクモよかった。平ゴマは上品に舞いチョンカケしたり 回しかけしたりしち優雅じゃつたが 誰でんゆうしたもんじ 12月になると顔を出しよつた。こん頃にゃ女ん子は羽根突きが始まった。ムクルをひらいダイサンが作るぬー見たもんじゃ。

★ ゴマ…ゴマにはいろいろあっち 子供がゆう作ったもんじゃが 芯がゆうねーと キリキリ舞いしち飛んじ行く。出来がいいと ウドンジ回り スンジ動きよんのかち見間違うごたる。舞い比べをしたもんじゃが 竹ゴマは音がなかなかゆうじ作るな一難しいが。ヒョンヒョングリンゴマも愛嬌があっちいい。

★ 鉄砲も竹じ作る。竹鉄砲 ゴム銃 杉の実鉄砲 ネコン玉鉄砲 紙鉄砲 それぞれつめる玉が違う。一つつめち次のをつむると 圧力じ はじき出す。★ オサシ…女ん子の遊びにゃ優しい物が多いが 家じ作るもんにも針を使い自然に 女らしさが身についち行くんじゃろう。上手に作っち見せ合うと次の日にゃ 他ん子が作っち持ちくる。

★ お医者さんゴッコ…子供の心に誰も教えんでん 相手の体を見る自然体の遊びが お医者さんごっこ。からはじまるごたる。他んしが知らん間に悪戯じゃねー そげな遊びを通じち異性の体を見る 人間本来の姿かんしれん。やがち好きなような心の動きが相手を 意識しち怒ってみたりするのん 好きな証拠じゃろう。

★ 隠れ鬼…鬼が決まっち目をつむり数を数える。そん間に隠れち早う見つけられた者が鬼に代わる。夕暮れになっち隠れ鬼うすると 浚われるち言われた頃はやっぱオジイもんがおった。んじゃろう。いつまでん帰っちこんき見に行くと 素直に鬼をしよった。他んしはもう早う帰ったに。正直な子供も多かった。

★ 当て比べ…牛を見たら馬を見たら荷物を担ぐ。そげな決まりで ジャンケンしち 途中じ出会うたら荷物持ちを交替する。遠くん牛でん見つけち荷物サデヤル 運命遊びのようなもんじゃつたが。人を憎まず自分の運の悪さを反省する 優しい子供たちの生長期かんしれん。

★ テマリ…手まりの使い方にはいろいろあるけど ついて弾む時の動作が遊びになる。普通につくのが数え歌 どこまじ続くかの勝負。右足う軸に内と外に足う交わしち交替につく。足を動かしながら回っちついちゆく 後ろ向きになつちつく。そのまま背中に手まりうかるう。

ブクン中に包み込む 半纏に包み込む。弾ませちぼんとついちくるりと回っち又つく。つきよるぬ一手を出えち取っちつく。遊びの中じ取り合うな一勝負より 巧みな遊びかんしれん。ついたぬ一足ん先に乗せちそん足じ突き上げち 弾ます。これにゃどこまじ続くかん勝負になる。

★ ハネツキ…『むくろを拾うちきたき羽根う作って』 ムクロん木の下じ拾うた種にゃ 黄色い皮がかぶさちよる。そん皮ん中を水うつけた筆じコスクルト泡が立つ。黒いムクロに穴うあけち羽根うさすとケックシャイイ羽根が出来た。板じ作った羽子板じカチンカチンと 羽根突きも師走には始まる。手元に鈴つけたり。

★ 瓶割れ…色が美しいき瓶割れでん子供にゃ宝物。角が丸うなちよるともう怪我ん心配もね一き。オトシかる出えた宝物が遊びの道具に早変わりしち 持っちょらんとはずみが悪い。欲しいもんじゃき帰り道じキラリ光ると ツージ行っち掘り取ると硝子ん割れたの もう嬉しいやら笑顔がほころぶ。

筆入れん中にちゃんと入れち 勉強中でん何べんも覗き見をしよると 先生がなネンブチが飛んじ来る。それも昨日自分が山かる取っちきたもん。『お前ゃ立つちよれ』 しかたねえ後ろにいっち立つちよると 先生が筆入れん中を見ち美しいの。何か嬉しいごつなつたが立つちよるな一情けねえが。



★ ワナかけ…竹をうまく利用しち糸じ引っぱると ワナが出来
る。竹の弾力じ支えを当たるとハジイチ 挟まれちスズメや小鳥
ん首がしめらるる。獲物を食ぶる事より仕掛ける楽しさ 子供
の能力が試さるる。やがち一人前の獵が出来る駆け出しかんしれん
が 工夫する事から才能も引き出された。

★ 川干し…谷川ん水は汲み出しが早えと 溜まるまじ時間がか
かる。そん時間差を利用したんが川干し。順番に水う汲み出えち
5つぐらいしたら 大けな淵も水が少のうなっち魚が手づかみ。
大けなウナギもナマズも捕まえち 得意顔。女の子がテボをさい
出すと 『お前どうがんは大けなのーやど』 と男らしい。

★ ジョウラン採り…軒先にエバを張ったジョウラングモ。喧嘩
さするにゃ他かる取っちくる。笹ん先じうまい具合に巣ぐるみ巻
き取っち 庭先ん木の枝に止まらする。次ん朝見りチャント巣
を作っち餌もかかちよる。けっくしゃ大きいちタヘラク言う
と笑われたが 自分がんなヤッパ一番のごたる。

子供が遊ぶ時そこらにあるもんが すぐ道具になり工夫する技
を考え出す。スモツクレンごたるもんでん ヘモヘグレンもんで
ん使い方じゃ素晴らしい 遊び道具になり知力も延ばしちくるる
き 遊ぶぬー見ちよると土まみれになり 顔を汚しちでん夢中
になちしまう。それだけ夢の世界じゃろう。

五助さんも子供ん頃にゃそげな遊びを おかしゅうなるごつ若
かった自分どうの遊びとあいこ。吹き出し
そうなぬーえーと我慢しち 後ろ向いたら
ゲンコツもろうた。シヤ当たったきコラエ
ナー 見つめられた汚れた顔がキラキラ輝
いちよる。どうしち怒らるるかなえ。こら
と言うのをじとこらえた。



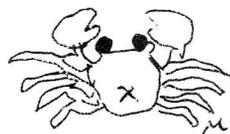
★ ママゴト…女ん子の遊びん代表的なもん に ママゴト遊びがある。ゴザを敷いた上に座ると 花や割れた茶碗なんかが道具になる。母性本能が自ずと育つのか お母さんらしさがもう頭ん中に 芽生えちよる。シソん葉っぱにカンナン赤い花を クルリと巻くとケツクシャご馳走になっちよる。

西ンホウガ曇ったかち思うちよつたら 大粒ん雨が降りで一た。はげしゅうゴザをヒッコスルと 壁なしに引張くうだ。ドンドン様が鳴るとピカリ光った。ツボを叩くごつ降る雨に水うハジキアゲチ そこらへんのゴーソーまじ洗い流した。ドイモン葉っぱう頭にませちツージ帰ったしが 壁なしの飛びくうだ。

★ ガニツリ…ナガセになっち毎日雨が續く。田植えがエート済んだき田植えヨコイ アガリ口じ皆話が弾んじよる。子供はタエーガネーき ヨケ水ん側じ這いよるガニう漬け物う餌に釣りよる。イカリコも餌があつたき銚じ捕まえたなよかつたが 釣り上られち塩いりされちしもつた。

★ 人形さんごっこ…女ん子がトギと遊ぶな一人形さんごっこもある。もうでーぶん汚れたけんど宝物んごつ 遊びにゃ大事なもん。頭を撫でまわしち着物う着せ変えち 寝せたり布団ぬかけたり女らしい。心じ何を考え何を思いよるんか 時々一人言う言いなながら夢は広がちよるごたる。

ちっとウブ毛が 見エで一たところ なんか急に変わったこつ一言うたりしちみる。『あんたトット好かん』 ダマシ言われちトチメンポフッタが 本当は好きち言いてえ態度かんしれん。年頃になっち行くんじゃろごたる。『やんな生えたか』 言われち顔が赤うなつた方は ちつたーオクテか。セガウナち言うといちベーセガイトーナルき不思議なもんじゃ。知恵もついち来たんじゃろっきな一。



★ ビーロン…ビーロン遊びにゃいろいろあるが 主なもんは当てち自分の物にする。それが狙いごたる。適当な距離じ近寄り狙いさざめちカチンと当たれば貰う。勝負ははっきりしているが 距離の駆け引きが問題のごたる。土の着いたビーロンぬオトシじ カチカチいわせち先生に怒られたもんじゃ。

★ ウチ…紙の丸いパッチン ビタ ウチ 呼び名もいろいろあるが 遊びからどれでん通用する。地面に打ちつけち相手のがかやれば貰う。相手の上に乗ると取られ 相手の下に入るとスクイじ貰う。何人もじすると他の人のもスクイ 乗りすると勝負が別れ目になる。

★ 宝隠し…相手の知らぬ物を土の中に埋めて 感触じ掘っち搜し出す遊び。決められた範囲に埋めるから 個性が見すかさると見つけださる。掘った《浅く》土の色 回りの土の動きなんかから 搜すだけに能力もいるけど シカトシモネー所に埋めたりするしもある。

★ トリモチ…モチの木ん皮をはいじコツコツつくと 粘りが出ちトリモチが出来る。竹のウラ先につけちセミ スズメ ハチなんか取る。軒端んスズめん巣かるスズめん卵も取る。本当はムゲネーコッチャケンド そかー子供じゃきタヘラク言いてーばっかりに 何でんヤラカシタモンじゃ。

★ オリバナ…彼岸花ん軸う3センチぐれーずつ 前裏に折っち中を取ると飾りが出来る。汁わ苦えがそけなこたーお構いなしじ プラサゲチ歩くと風に揺れち美しい。女ん子にゆう似合うきこん頃にゃ 皆つくりよった。花びらが上品じ毒があるなんか考えられんごつ 美しいになえ。

★ アヤトリ…女の子の遊びに上品なアヤトリがある。紐などを使った遊びには道具が 手近にあって誰でも簡単に覚えられるもの。見よう見まねで上手になる遊びが 時には旨さと不器用とに別れる事も。巧みに両手にかけて紐をすくい取りながら 遊びの世界にさまざまな形が作られる。

★ 子守…遊びの中に必ず入っているものに 家族の多かった時代の子守がある。背中の子供も肩越しに遊びの仲間に入るのか 動きの中から自然覚えて手を出し足で教える。子供の世界には暖かな気持ちが広がって 時には子守を交替する微笑ましい光景も 見られた。

『ちょいとかわっちくりー』『どうしたんか』『しょんべんぬばりとうなった』 それだけじ交替しち子守をする。皆が家族のような子供の世界じゃき こなされてんすぐ むかっち敵う取っちゃう。『いっときオンジャロー』『ヤ イインカ』 子守を代った隣ん子供。

★ 小昼炊き…忙しい百姓には時間が長いから 三度の食事の他に間食が多い。小昼 夜食など時の呼び名もあれこれ 作る物も多種多様。子供も大きくなると見よう見まねで作るのに手を出す。小麦粉をうまい具合にこねて ダンゴにしたり焼いたり煮たりすると 結構腹の足しになるもの。

上級生になった子供たちはこんな生活の 間に女らしさが能力を発揮して行く。母親譲りの料理が評判になったり 嫁話の極意が発見されたりして 芸は身を助けるとはまさにこのことか。心の中に自然と育った優しさと特技は これからの人生にも大きい役割を果たしてくれるよう。

ばばさんが味見してニッコリ笑う横顔には 孫娘の 成長した悦びと嬉しさがこみあげているよう。自分の年を忘れて。



★ 虫つり…ツボ先の小さな穴に虫がおる。細い草の芯を差し込み 暫くすると食いつく。すかさず引き上げると餌と思って来る。虫もひもじさには勝てないのか うっかり引き出されて慌てる様。

★ 蟻呼び…暑い夏にせっせと働く蟻に 餌をやると瞬く間に蟻の行列が出来る。話ながらせっせと運ぶ餌は 冬の食料になるのだろう。時の間に出てくる蟻の稼ぎは人にも当てはまる。

★ 小刀…やっとなら買ってもらった肥後守。鉛筆から竹細工などの子供遊びには 欠かせない大切な道具。大きい子が持っている物を真似て 自分にも出来た喜びは次の物への挑戦に。時には怪我もするがそれが用心して使う知恵に。箸をかき玩具を作り工面した道具が 子供の世界に大きく広がる。

★ 柱松…盆の行事の子供の世界には 大人の加勢をうけてするものもある。大きい仕事は手伝ってもらい 自分たちは材料を集め夜になげ挙げて火がつくと 幻想の世界が醸し出される。送り火が夜空に赤く燃える柱松の火は 人の心も温かくしてくれる。ヤセウマ 鼻つまみダンゴが子供の夢を更に膨らます。

★ 笛…涼しい音から激しい音 悲しみや喜びの音まで出してくれる笛の音。小刀を上手に使い丁寧に作り出す竹笛。柴の葉っぱで鳴らす笛。横笛 笹笛 あるもので工面して鳴らす子供の笛は素朴な 農村の光景をバックに写し出される。竹に笹の葉っぱを挟んで鳴らす音は 大胆な色気もある。

★ 輪まわし…桶の輪がえした輪を上手に竹の軸で回す。丸い金の輪に小さい輪をはめて回すと シャリンシャリンと音が軽やか。学校帰りに回しながら道のデコボコを 巧みに交わして上手に回すのも一つの技か。子供の世界には季節を先取りしながら 遊びの駒も次々と変化して年輪を刻む。

★ 亥の子…秋の月に入ると子供の楽しみな 亥の子行事がある。藁で作った藁打ち槌で家家を回って 祝う人たちから餅やご祝儀をもらう。新しい餅をついて皆平等に子供たちに食べさせる そんな思いが込められている。もともと豊作を感謝して害虫を殺すのが目的。でも感謝と豊作を祝う気持ちには変わりがないよう。

大きい子供が面倒見ながら連れて回り 少しずつ段差はあるが皆に分配する。素朴な習わしが順番に受け継がれても来た。貰った餅も家族が感謝して食べる風習で 豊作をみんなで祝う気持ちからも。貧しい子供のあった時代の支え合う 思いやりの行事として心温かくなるもの。

★ 名月様…丸い十五夜にツボサキの手みーに 供えられた果物野菜などを黙って外す習慣。もともと皆で楽しく祝う気持ちの現れだろう。さげられた家出はすぐ後に供えて次の子供を じっと待つ心くばり。他所からもらった物は何でもおいしいもの ましてや心が籠もる物をスリル宜しく頂くのだから。

『子守しよるき二人分やろう』 と声をかけられた女の子が恥ずかしそうに ハンテンの裾を出して貰った。ちょつぱり顔を赤くして…でも嬉しさは隠し切れないよう。帰って家出はほのぼのとした話の輪が出来ただろう。隣近所がもちつもたれつ支え合うのは尊いもの。巡り合わせが人の心まで優雅にしてくれる。

★ 川まつり…夏の男っ子の行事にある川の神様に感謝する。男の子が小さな瓶に酒を買い 少しずつ配ってご祝儀を受ける。川の中で子供ながらの心の祭りをして 先輩が段差はあるが分け前を。順々に譲られる素朴な行事も子供の世界の夢。そんな行事を通じて故郷の愛着と理解が生まれる。

生活文化 《包む》

物う包むにゃコボレンゴツせにゃならん。そこらにあるもんじ包む知恵も湧いたんじゃろう。人間が生まれたら洗おち産着じ包むな一愛情ん現れじゃろうが包むと隠すじゃちっと違う。

包むもんにゃ物ん無かった頃にゃ竹ん皮 サトイモン葉っぱカンカラ トキワ カシワ 藁 なんかが使われた。身近なもんじ間に合わせた咄嗟の機転。それが生活ん知恵ち言うもんやんがち新聞紙 紙袋 薬袋も使われでえた。てぬぐい 風呂敷も隠すとか包むとか 便利なもんが出回る。

腰巻 イモジ オコシ 呼び名もいろいろじゃけんど女ごしん腰に巻きつけち大事な所う隠す包む。温うあっちやっぱ大事にせにゃち思う 気持ちの現れが自然形になっち腰巻を考えだしたんじゃろう。男しんへコも隠すと包むと兼ねちよるが前に余分に下げた分は見かけうゆうした心くばりじゃろう。

顔を包むにゃホホカブリが両方《両頬》いいと。寒い頃にゃどおいいか耳ん端が切るるごたる時でんこれじで一ぶん助かる。そり一汗が出りゃすぐ拭かるるし手を洗ゃ手も拭かるる。なんか貰うたならすぐ包むのんいい。怪我でんすりゃクビッコキヤ包帯ん役もしちくるる。

姉さんかぶりは女ごしん頭を上品に包む。子守にゃブクが子供う包んじくれち自分も包まるる。逢引きん娘は好きなしに腕じ包まれ貰った文は袂にそっと包まるる。赤子を抱いた母親は乳房をくくませち両袖じしっかり包み込む。細めじ母親の顔を見上げち甘えるごたる顔に笑みが漏れた。乳首は可愛い口に包まれち。

包む生活文化には長い間に
そだった人間の知恵が。



丹精こめて作った米を包むに《入れる》儀がある。長い間一緒に風雨に絶えち秋う迎えた仲じゃき 包むのん藁じ作っち離さんごつん親心か。藁をスグリ小縄じ組合せちトズルと 口う閉むりゃ入れ物い早変わり。全てが藁を利用した百姓んアイデア。二重にしち口をツブシタ…サンドーラ。クチナワ ホズミをかけち。

茅を上手に使うた炭儀も炭を包む入れもん。口に川原柳じ閉むるとホラ出来上がり。馬ん背に山かるオセダス蹄とカサコソと炭の音が調子ゆう響く。ホタルう捕まえち障子紙に入れち包む仄かん明かりがナントンイエ。ブラサゲチ歩くと飛びよった螢が 相手と間違えちツージ近寄っち来た。

シモッタコツシタそげなしの恥じう隠しち包む。近所んしの心くばりも相手ん心う包む。ダレデンソゲンコターアレージャち割り切って人に知れんごつ包んじやる優しさ。長え人生にゃいろいろありゃーな お互いに庇いあう本当ん気持ちゃ そげな所に出ちくるんじゃろう。

うら若い娘が好きな人に出会うちモジモジしちよる。言いてえ言葉が咄嗟に出らんき 代わりに言うちゃろうち回りが包んじやるち。気持ちゃわかちよるき歯がいいけんど 言い過ぎになるとムゲネーコチーナル。二人ん仲をみんなじ包んじ願いが叶やゆうことなしん万々歳じゃ。

祝いん席によばれち自分がんことんごつ嬉しい。心んこもった気持ちう包む。品物んいいしもあるうがヤッパ現金も都合いい。自分がん気持ちも合わせち包み込むと 相手に心が通じることたるき。お互いの思いやり支え合う気持ちが心が 一つん包みを中に温かな情愛となっち流るることたる世の中。何のこたーねえー包むこと でん かんがえち見るとほのぼのとした心になっちくるき 不思議なもんじゃな。



ハカリ売りの生活は人間には切り離せないごたる。チギ マスモノサシ なんかを使うち生活ん品物が流通しよった。それがあ
るき作るしも買うしも 互いにイノチキが出来たんじゃろう。米
ん場合はマスじ計っち俵につむる。買うしがありゃ作るしも欲し
もんぬ買う錢が入る。

チギじ量り売りするもんじゃ塩 タバコ 菓子 味噌 醤油
砂糖 魚 乾物 炭 何かがある。マスじ計るもんじゃ酒 酢
米 麦 アワ キビ アズキ ダイズ 何かがある。モノサシじ
計るもんじゃ布 縄 糸 板 材木なんかがある。人ん心は計る
な一難しいけんど 比ぶる事があるき計るんかんしれん。

かたげて魚うりにきたしがチギじ計る。チット重みがあるぐれ
一じ『まけちよくで』ち 渡す。ほんのチョイトンコツが買うし
ゃたまらん嬉しい。『すまん』 田舎んしは正直じゃき感激
いいなりに払う。ほんとはちった細工したかんしれんが。そこが
顔なじみんいいところ。

『チットサミーガ』 余分にいれたので損をするけんど そう
言いながら諦め気色じ渡す。『よそじそんぶんな儲けな一』 買
うしも負けちょらん。そげなやりとりが見かけらると 行商も
なかなか手ごわい相手。『ブエンナイランナ』『ドコカルモッチ
キタンナ』『沖の浜で』『そりゃうまかろう』 出所じ買う気に
しちしまう。本当はよそかんしれんが。

『トボーカケチユウ計っちやるき』『指がこすっちよるで』
『ありゃ本当な』 ほんのちっと一でん指がこすると斗升じゃ
かなり違うちくる。升 傾けち計るとこれもで一ぶん違う。そ
り一湿気がこれまたフトーナ違う。晩にシツうっち明けのに荷
を渡すとチョコット儲かる。

『茶をわけちょくれ』『いいで』 升にばらばらといれながら
ふちうちと越したら 『ハイ一升』 ち袋にイックリカヤス。
チットおさえつただけでん中身はデーブン違う。掛け目にする
とその心配はねーけんど 湿気がチットーデンアリヤーで一ぶん
違うちくる。

はかり方ん方法じ駆け引きが難しいごたる。『砂糖おくれ』
『どんくれな』『一斤』 それは160匁ち言よった。黒砂糖を
子供が買いに行くと帰りに 竹ん皮んくろかる手じコジクリデー
チ食う。デーぶん少のうなち帰りつく。『おとろし少ねーの』
『しらんで おりゃ食やせんで』 自分じクチホコッチシモウタ
ゴタル。

砂糖は計り込むちゆう言よつた。チギじ計るとどうしてん棒が
平均まじせにゃならん。ちっとでん低いと後じやかましいき計る
苦労が。しまいにゃ計りくうじしもうち聞く。元々ピシャット
シカ入れちょらんき。白砂糖は特にそうじゃつたらしい。黒砂糖
は桶に入ち来るき へソクリじつついち起こす。『お前ちっと
起こせ』『あい』 調子ゆう起こすとコボクレを褒美にくるる。

刻みたばこも量り売りん頃があつた。たばこ専用んチギじ計る
き雨降りなんか 『早うしよや』 ちせきたてらるる。きせるが
はなせん年寄りたちも 手のひらじ上手に火玉を転がしち 次の
たばこにつけち吸う器用さ。もう珍しい光景になつちしもつたが
。そんうち袋入りん『なでしこ』『はぎ』 なんかに。

一頃は血の量り売りうするしもあつたごたるが 命ん量り売り
はちつと困るんじゃあるめ一か。昔は命を売った時代もあつたが
量り売りは いつの世も大変なごたる。
チギを片手に商いをしちよつた人たちも
苦勞しち 過ぎした過去に思いを馳せると
思い出も新ただらう。



カクウチン酒を注ぐ時にゃちった ユスルトこぼれるぐれーに注ぐ。手じ迎えに行き口が近づく顔がホコロブ。同じ計るんでん人と人の気持ちちが酒を通じち 渡り合う。油を計るにゃ可成りん技術がいる ジョウゴに残る分を上手に区切る。タラタラ垂れた残り油は恨めしいが。

足じ計るに川の仕事がある。川底に沈むる木を入るるにドンクレン深さか 足じ計っちみる。川底ん状況じで一ぶん材料もチゴーチくる。感触じ分かるのん経験と仕事に詳しいけんじゃろう。

目じ計るもんも多い。人間の裁量もじゃが相手ん気持ちや思う心 早う感じ取る方が勝ちん時もある。チョイトヒッカケチ見ると相手ん気持ちちが動く。仕事ん出来具合も練習した出来も 心ん目で計るしかねー事が多い。相手が酔うた時も日ごろん状態とじ解るもんじゃ。

足音じ歩き方じ誰かが解るのん 感じた計り方じゃろう。物うつかわんでん計らるるもんな 心の中に相手がチャント通じあうけんじゃろう。曲がりくねった山ん中じゃ歩いち 歩幅じ計る事もある。感がよけりゃ間違いねーじ解るもんじゃ。人間の脈でん感触に頼るとほぼ性格につかまゆる。

包む 計る なんかにちーちぜ一ぶん参考になったじゃろうか。道具があんまりなかった頃でん 相手とん気持ちちが理解出来あえば あり合わせの道具じ計る事も 包む事も出来るもん。そこに人間の生活の知恵も生まれ育ったんじゃろう。区切りとして計ることは物が相手に移る意味にもなる。

包まれた品物に気持ちの暖かみも込めて 大切にしちもらいてえ心も包む込む。人間の本心があるんじゃろうき。

飢饉に対応した食文化

長い年月の中では飢饉も決して珍しうねえ。そんな時い何でん食う知恵も育ちきたもんじや。手ッ取り早えもんな何でん集めち食うこつー考ゆる。

野山畑じ取るるもん…カンノンソウ フツ ミツバ フキ セリ ワラビ ゼンマイ ダラン芽 ウド シイ トチ タケノコ ナバ ヤマイモ カゴメ アケボ ガラメ イビラ カンネ なんかがあった。ちっと煮たり焼いたりすりゃ食うことが出来た。

トチ イビラなんかは アクが強いき煮たり曝したりしち 食うにゃ何とか食えたもんじやった。カンネはついちしぼった水分ぬ曝すと 沈む分がダンゴに出来た。

川かる取るもんにゃ魚 カニ 貝類。山かる取るもんにゃウサギ タヌキ ヤマドリ スズメ 田んぼにゃ キナ ドジョウ タニシなんかも 栄養満点の食い物じやった。

一年作物ん野菜 穀物なんかは米 麦ん足しになったし 食い延ばしん知恵にゃ『だんごじる』は 最高の代用食じゃつたんじやろう。戦時中 でん疎開者が常食にただけあっち 戦後でん味が忘れられんじ食べるしも多い。物を大事にしたしはちよつとぐれーは困らんが 家内が多かった時代だけに食いもんが 一番悩みん種じゃつたごたる。

一合雑炊二合粥三合飯ち言うごつ 米が一合ありゃ雑炊じ食えるが お粥じゃ二合いる。飯に炊くと一人三合いるちしたもんじ米ん食い延ばしに 苦勞した事がゆう解る。昔かる人間が生き続けたのん知恵じ 何か食うち来たかこそ。生きる知恵はたいしたもんじやな。

日本人の食後にゃ欠がされんもに一漬け物がある。漬け物ち一口言うけんどケックシャ多いきな一。ネンジュウ食うもんにゃタクワン 白菜 高菜 なんかが代表的じゃろう。畑んクロに植えた野菜かる漬け物に うまいぐわいに使うな一昔かるん 生活ん知恵じゃろう。つかりだちん漬け物な他んオサイはいらんごたる。

ほんなどげなんがあるんかえ ち言われてんケックシャ多いけんちっと 別けちみろう。★ 普通に漬けたもん ★ うす塩漬け ★ 調味漬け ★ 酸味漬け ★ 酒 焼酎に漬けたの こんほかもあるじゃろう。保存食とん言わるるき 見よう見真似じ覚ゆるもんも多い。

ほんな材料はなんかえち聞かるるが それもケックシャ多いな。手っ取り早え畑ん野菜 大根 白菜 ニンジン ごぼ一 きゅうり タチワケ ニガウリ ショウガ ナスビ ハヤトウリ シャクシ菜 かぶ カンラン なんかはどこでん使う。

味噌漬になると こげなんをうまい具合につけ込むき 味が中々いいもんに仕上がる。シソん実 サンショウん実 も風味と香りがなんとんいえん。塩漬けにゃ トーガラシん葉 桜ん葉。梅漬けにゃシソん葉も。

高菜漬け 浅漬け 糠味噌漬け ラツキョーなんかの酸味漬け。麴漬け 奈良漬け 福神漬け ベッタラ漬け やらあるけんど田舎にゃタクワン漬け 味噌漬け 糠味噌漬けなんかが ゆう似合うごたる。漬け物にゃ栄養価値はまあまあんごたるが それより風味と気持ちちが食欲を起こすんじゃろうごたる。



古くは厠 せんちん せっちん ご不浄所 便所 税金納め場
そしちこん頃は トイレ お手洗。いつか聞いたな……下屋敷ち。

百姓しん家ん入口ん脇にゃ ションベンタゴちゆうもんがあっち
来たしが 座敷に上がる前に用事う済ませた。主に男しが使うが
コンメー女人子のもサイダス。簡易ショウベン所かんしれん場所。
普通ん便所は離れた建物にあっち 用事ん時は外に出たあとそこ
に行く。若嫁ごなんかオジーキ婿じょうについち来ちもらう。

紙が置いちあるな一良いほうじ ゆう家の光ん本があった。春に
ゃフキン葉があっちケックシャ 尻あたりがいい。山じカンカラ
ン葉やら カンネカズラン葉に比ぶりゃずーとマシじゃ。昔んし
の話によると…荒縄が脇にひっぱっちゃつち そんな上う股
ごえちヌグウと 美しうなったんと。次んしがゆく頃
にゃ乾いち固まるそうな。

座敷続きん板縁のさきにあるんが カミチョウズ場。ここにゃ紙
もありゃ手洗い鉢に水もある。側にナンテンが植えちやるな
ーここじコケタ時 ナンテンにトンツクと大事にならんじい
い。シヤ倒れてん難をのがれたち言う。日陰ん湿気んある場所
だけにナンテンの花 赤い実もゆう似合う。

センチンにゃ用足し以外に風呂先も流れこむ。こん頃は風呂ん
中じすりよったきアンマリかけ湯は。それでん一杯になるとド
ボンと跳ね返ったりしち 尻をハゲシュ横に振る。ダルカタゲ
にゃ継ぎ持ちしち田に撒く。肥料ん少ねえ頃じゃ効き目も満
点じ ヒンガー一日担げた日もあっち若いしが共同じ。

ぎょう虫回虫も多かったがなんでん話じゃ 上手につきあや
ー虫も他ん害虫を退治しちくれよったらしい。《専門家の話
から》人間の体はそんな仕組みになっちよるそうな。ゆうした
もんじゃ。

農家のナイショには板張り半分 畳半分の『イロリ』を囲んだ間がある。親父が上座にデンと座り母や嫁は板張りに。炊きたての飯も味噌汁も ダンゴ汁も ここじツガレち順番に渡さるる。一番先に親父かる男しに ついじ女ごしに。たしかに男尊女卑の風習が続いちよつたき それがごく当たり前じゃった。

それでん囲うだイロりん暖もりゃ 回りん皆にアテゴーチクルルき 有難て一ことじゃった。上がり口ん女ごしゅ寒かろうが 後ろからん冷てえ風がイロりん煙りゃ 吹きやっちもくるる。男前んいいしにゃ煙りが行くち言うが ケムテーノン困ったもんじゃ。腰が冷ゆると悪いちハンテンぬ足ん傍え被する。

メラメラち燃ゆる火が皆ん顔を赤う照らし出し 家族がサカシイ夕飯時は何か嬉しい事じゃ。麦飯ばかりん毎日でん 時にゃ米飯ん祭り 盆 正月 そり一葬式にゃ米飯が食えるる。そん時んコガレはひと味違うき不思議な事じゃ。オハギゃ炊いたら近所にも子供が持ちち行く。コン前ヨバレタキノヤ。

イロリゃ囲んじヤウチが今日ん仕事ゃ話す テーゲー嫁ごは片付けじゃが聞くとはのー 聞こえるごつ話すのんヤウチじゃろう。大けな木をサシクベチ ヒンガ一日燃えよるイロリ。夜なべに繕いもんぬする脇じ子供も 勉強しよるが昼ん遊びにダツタンカ寝ちしもうた。『風邪ゃひくで』祖母ん声に目をこすり寝床に行く。

裸電球の薄くらい下で何べんもフセた野良着。愛情が苦勞がしみち一ちよるけん尚更 愛おしい思いがする。皆が寝床に入り嫁と姑だけが明日の 幸せを願いながら針仕事に夜は更くる。同じ道を歩かせたくない気持ちと 時にゃ葛藤もあるけんどヤンガチ世話に。そげん思いも頭ゃ掠めち。

大けな石臼が水ん力じ回りよる。谷水うせきあげち井手う上手に伝わっち来る。松やら檜やらじ作った水車にゃ 長え間に水苔もちいちよるが今日もサカシユウ回る。赤光りする歯車んきしむ音が動くたんび蜘蛛ん巣をイサブッチ 時折り白い粉が舞いおつる。娘ん被った姉さんかぶりがゆう似合う。粉ひきに來たのん若いしとん出合いに 親が氣を利かせたんじゃろう。

年寄りしがセガウごつ『別嬪になったのー』『ちゃー知らんで』内心は嬉しうじこたえんが素振りが 隠すのに顔まじ赤うなった。『もうぼちぼち嫁ごに行かにゃのや』『貰っちくるるしがおらんわな』『知っちょるど…いつになったんか』 不意をつかれち戸惑うたが 言わるる喜びは本当んこつー言いてーぬ じっと我慢する。

体も一人前に成熟したち自分も思う。親ん勧めもあっち相手も知らんしじゃねえ 嬉しい気持ちと不安もチョコットはあるけんど。皆がアルクといつまでんこんままじゃち 焦りも出ちくる。そげな時い話が持ち上がった。粉をする合間に年寄りに冷やかされのが大人になった証かんしれん。ふっと胸の膨らみに手を当つる。

人に連れられち流れち來た水が力を出す。クルクル回る歯車かる石臼う幾つも動かしよる。若嫁ごが荷をおろしち入っち來た。娘と顔なじみになっち心が和むごたる。『來ちよつたんな』『粉ひきにな』 姉妹んごたる二人が外にでると笑顔がこぼる。話が弾んじ先輩らしいこつー話たんか横顔に 頬が赤うなったごたる。

夜の営みう話ちよきたかったらしい。恥じらいんこたー親でん話にきーんか。でん気安い人ほうがケックシャいいんかん知れん。娘が姉さんのごつ思うなーどれだけ幸せんこつか。石臼は止まることもねーじ粉うひきよる。時折蜘蛛ん巣をイサブッチ。

米価の移り変わり……1781 = 1981…《一俵》

天明元年	1781	……	17	錢	
3年		大飢饉			
6年		大雨洪水	22	錢	
寛政2年	1790	……	12	錢	
12年	1801	……	26	錢	
文化元年	1804	……	12	錢	
7年		……	10	錢	
文政11年		越後地震	35	錢	
12年		江戸大火	39	錢	
文保2年	1832	……	30	錢	人口2720万人
3年	1833	諸国飢饉	38	錢	
7年	1837	諸国飢饉	60	錢	
9年		佐渡百姓騒動	34	錢	
弘化2年	1845	……	50	錢	
安政元年	1854	……	40	錢	
2年		……	28	錢	
5年		……	55	錢	
6年		……	67	錢	
万延元年	1860	……	79	錢	
文久元年	1861	……	65	錢	
慶應元年	1865	……	1円42	錢…	
3年		江戸幕府滅亡	1円46	錢	
明治元年	1868	……	1円69	錢	
2年		……	3円43	錢	
5年		……	80	錢	
6年		地租改正	1円20	錢	
8年		……	2円05	錢	
10年	1978	……	1円34	錢	西南の役

明治	13年	1981	……	4円80銭	
	14年	……	……	3円28銭	
	15年	日本銀行創立	……	2円08銭	
	18年	1885	内閣制度	……	1円73銭 伊藤内閣
	21年	町村制施行	……	1円42銭	黒田内閣
	22年	……	……	2円	山県内閣
	24年	……	……	3円64銭	松方内閣
	27年	日清戦争	……	3円66銭	
	32年	……	……	4円	
	37年	1904	日露戦争	……	4円36銭
	42年	米検査制度	……	4円	
大正	元年	1912	……	8円32銭	
	8年	戦争米騒動	……	10円20銭	
	9年	人口5500万人	……	20円	
	12年	関東大震災	……	10円40銭	
昭和	元年	1926	……	12円70銭	
	7年	1932	……	8円20銭	
	16年	1941	大東亜戦争	16円50銭	
	20年	1945	……	60円	終戦
	21年	1946	……	220円	
	22年	1947	……	700円	
	23年	……	……	1487円	
	27年	……	……	3000円	
	34年	伊勢湾台風	……	3966円	
	38年	……	……	5030円	
	44年	自主流通米	……	8218円	
	48年	1973	……	10390円	
	50年	1975	……	15612円	
	56年	1981	……	17603円	
平成	元年	……	……	……	



粃すりすんで里帰り

えーと粃すりがすんじ俵置き積んだ 地主に納むる米にゃ青い帯封が貼られちよる。白い帯封は今年もなかったが 不合も少のうじちったタヘラク言えるる。ダルカタゲしち穂ん出る前にウツタンが 効いたんか関ん権現さまお札が 虫よけしちくれたんか。

諏訪ん生徒が害虫駆除しちくれたんが ほんこん前んごたったが土用も ナガセも乗り越えち雨乞いせんまま 白山さまにゃ毎朝手を合わせち おごうだ。

ミナクチゃ切るしもネエーキ 鶴山かるくる水も皆がヨローチ分けおうた。ちっとんずつ相手ゃ思うち皆がフウヨケリゃ 気持ちもいいし米もゆう出来る。水番じ蚊にササレンジすんだ 若えしも楽しみな時間がなかったかんしれんが そんぶんなほけーいい事もあるんじゃねー。

ベンセンキ下ん米も今年ゃ少ねえき 不合でん高う売るるごたるき マチポリも出来る。クリームん一つでん買うちゃりてーがち。優しい思いがちよいと顔う覗かする。大分に活動でん見に連れち行く時にゃ チツタいいのでん買うちゃろう。えーと男んかいしょが見せらるるかん知れん。ぢいさんも ばあさんもサカシイきハリクウジ 加勢する。

家内がサカシインガ一番いい。色はチツタ黒うなってん元気なんな 年ん瀬も何とか越せそうじゃき。コラエニャ罰があたるかんしれん。そんうちーいい事もあるじゃろうき。

『在所に行くんな』 俵置きん影じ化粧しよる若嫁ご。ホズミンかかった俵はヤンガチ地主ん家に納むるが それまじ自分が娘う嫁に出すごつ ホズミカケタ俵ん藁がヒゲウムシッチ 美しう化粧したごたる。『義父さんが行ちきな一ち言うき』…嬉しそうな顔に一年間の苦勞ん皺も増えたごたるが。

餅あれこれ

餅は昔から大切な食べ物の上にランクされちよつた。同じ作り方でん粳米に比べち取れるんは少ねえが 腹もちが良い事もあっち普通ん食事ん 利用は少ねえじ祭りや大事な行事に使われちきた。秋の豊作に感謝しち餅っ作っち供え 農家以外ん子供たちにも平等に 食ぶる機会を作りでえた。

亥の子餅行事 お日待ち行事なんか 豊作感謝 太陽に感謝する人や地主が 小作人全員をゆうじ飲ませ食わせした挙句 夜明けまじん 楽しい時間ぬ平等に味あわせ 太陽を拝んじ帰る時にゃ家族にみやげっ持たせた。そげな お日待ち行事も人ん心が結ばるる。人間社会の片隅にゃ人の真心が生きちよつた。

新しい家を建つると火避けん為に ヒトギ撒きがある。祭りには必ず供ゆるオミスガタなんかも。そげなんは焼いち食べちゃならんちゆう聞きよつた。そこに火避ける心の意味があるんじやろう。餅もつけん貧しい家 餅もつけん年の暮れ 年越し 餅が生活の基本になちよつたような時代が長っ続いた。

小作人かる餅っつく事が出来る時にゃ 経済状態がゆうなつた証じやつたんじやろう。『ウチワ9斗ついたんで……ネズミが5斗つく、暈が4斗つくき』と誤魔化す悲しさ。餅つく音はお家繁盛の音でもあつたき 朝早っかるペッタンペッタン 杵かる手を放すに苦勞するまじ ついたもんじやつた。

餅の中に入るるもんも多い。粟 キビ すり粉 フツ ダイズ のり 食紅 なんかも入るきカラフルになちよる。食べ方もいろいろあっち ツキタテ生餅 すすり餅 保存が効く水餅 カキ餅 アラレ 鏡餅 焼き餅 雑煮 きな粉餅 餡餅 砂糖醤油餅 あげ餅 花餅 すき焼き餅 灰の中じ焼く餅なんかもあつたごたる。

方言芝居と舞台劇



方言芝居 舞台劇なんかで ぶん集まったけん そん中か
る 幾つが 話うしゅうなえ。五助さんが話すぬ一聞くと 思わんご
つ 髷う乗り出しとうなる。

親子ん場

惚れ地藏

苦勞は楽んはじまり

流した汗が人生の糧に

帰って来た人ん真心

情けは人ん為ならず

方言劇……『親子ん場』

馬子の五助

娘 おみつ

父親 公平

一の瀬渡しん五助さんにゃ不思議と人う引き付くる 魔力みたいなもんがある。話が弾むと時のめ一時間なすぐるき 暗うなっち帰ると叱られたもんじゃ。それでん五助さんかる話う聞いちょつたち言うと しょうがねえ奴じゃち上げた手がおれた。信頼も厚いき人かるも尊敬されちょつたごたる。

そん五助さん親子は肩寄せおうち仲睦まじゅう暮らしちょつた。娘んおみつは実は預かり子じゃつたが 両親と離れち17年ばかりになる。そん親父が一目娘見たさに ヒョカット帰っち来た。約束う破っちダマシ…それが親子ち言うんか人情か おみつが片付けしよる所い。五助は買い物い出ちょつた。

五助さんの家はここな…そうじゃが どなたですか。年頃の娘らしゅう丁寧に。五助さんの知り合いじゃが…と名前は隠した。出かけちよるき まあ上がっち…と勧められるままに上がった父親。あんたがおみつさんな…そうですが。17年も前のおさな子には記憶がないのが本当。しあわせな…はい 何とか…。

そき一買い物んかる五助が 見ちタマガッチおみつを使いに出すが ハラワタがタギルごたる。約束破っち帰った事う問いつめるが親なら 子ならそれが本当ん気持ちじゃろう。五助は迎えに来たのかと。すぐ迎えに来るつもりが…でん一目顔う見ち幸せんごたるに安心したき帰ると告げる。涙もろさが五助を駆り立てる。

本人の為にも周りんしの為にもいいんじゃねえ。せめても晴れ着の真似ごとと五助に渡すが 五助も解決に苦慮しちしまう。お客ん土産ち言うわい…涙ながらに外に出ちおみつの帰りゅう物陰かる。折角ここまじ来たに今生の別れとは…五助が果たした責任じおみつを返すのは 義理ゆえに悩み苦しむとは知らずに。

おみつは父親の物忘れ癖がち一たち 心配する。お客が土産うくれたど…おみつは変な胸騒ぎに…親子と言うのか情愛なのか…

何も忘れ物んななかつたで…あつたあつたオトシン中えあつた。父の様子がおかしいち娘心は悟る。お客さんな…いま帰つたど 土産うくれたど。なしえ…別嬪じゃきじゃろ一貫うちよきゃいい。おみつは怪訝な顔じ五助ん言葉を鵜呑みしたが 家の中のおいが複雑な光景に気づく。五助ん落ち着かんじそわそわが…

あんの—おみつ…どうしたん 変なお父さん。おみつ もしもど…お前ん親がここに来たらどげ—する。なに言うん 私の親は五助じゃこと。 おかしいで どげ—したん。うすうす感じたおみつ…先ほどんしが もしや自分の本当の父親じゃ夢んごたる信じられんことが不安に駆られ娘心を揺さぶり回す。

私の親は五助じゃろ—…目に涙浮かべて問いただすおみつ…それに頷いち答ゆる五助。親子が義理ん為に涙かくしち 突然の父親の出現。流す涙は17年間育ててくれた 実の親にも勝る愛情がありゃこそと。でん実ん親がはるぼる来たに別離ん悲しみは 味寄せたか—ねえち 五助優しさが顔う覗かする。寒い晩寝たぬ—おんぶしち帰る肌ん温もりう 親に味寄せたかつたち。せめて顔見合わせ納得しち別れるんなら…涙顔んおみつも。

分かつたもういい…お客さんに礼を言わにゃ おみつお礼をいいなあ五助ん娘じゃろう。そうよ五助ん娘で 今更父親じゃち言われてんそれがなにな 熱う出えち悪かつた夜真剣覗きく—じ 気づこうちくれた時ん心配そうな顔 私の父親は五助です…お礼を言うちくる。足取りも重う外に出たら お客も覚悟決めちよつた。

仲睦まじい仲に父親らしい他人が何で入れよう…おみつさん幸せになちくん—な…今日は来ちよかつた。私は五助ん娘です。泣きながら親と言えない苦しさを 皆わかっているのに。私の父親は五助です…お客もここまじ育てちくれた感謝ん気持ちじ おみつを五助んほうに押しやる。五助もまた責任ぬ果たした安堵感かるお客ん方に。

今日はお邪魔しち本当によかった おみつさんも親の言うこつー
ゆう聞いて よいお嫁さんになってな。おおきに。おみつ何か言
て一事があるんじゃねー。無理う言いなんな五助さん。いやおみつ
は何か言い忘れちよる おみつ…。五助の嬉しそうな上ずった声に
乗せられち 思わず漏らした…お父さん……偽りのない親子の気持
ちじゃつたんじゃろう。

方言劇 『親子の場』 平成10年12月23日に開催の
野津原町社会福祉協議会主催の
チャリティショーで 上演披露。

出演 馬子の五助 娘のおみつ 父親の公平

★ おかゆあれこれ 五助さんの話がここまじ来たら おみ
つさんが おかゆを出しちくれた。

おかゆにも いろいろあっちのや…ゆう言う『おかゆ』 た一米
一合に水七合入れち炊いたのがそれ。

全がゆちゃ…米一合に水五合入れち炊いたもんがそれ。

五分がゆちゃ…米一合に水一升入れち炊いたのがそれ。

、ちよいと考ゆると 全がゆと五分がゆたぁ反対んごたるが 本当
はこげなことらしい。まぁ何でん知っちょつち悪いこたーねえき。

ついでに中国じゃ油う入れち炊き 米か割れたぬー『おかゆ』ち
言う。米が割れちよらにゃ『ぞうすい』 ち言う。雑炊は昔は増水
ち言よったらしいが 後い雑炊ち呼ぶごつなつた。ちゅう話じゃ。
五助さんの話はいつまでん あかんもんじゃのう。



方言芝居 『惚れ地藏』

地主の娘ユリは妙艶な美人じ年頃になり どうやら好きな人もおるごたる。がそりゅう言い出せんのも年頃じゃきじゃろう。とうと熱う出えちしもった。お医者に診ちもろうち薬も ぬうだが効き目がのうじ困ちよる。今日も往診に来ち知恵う出しおうた挙句に府内ん薬問屋んニンジンでん飲ますりゃに一なつた。

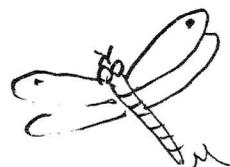
思案なげ首じ外に出たところ一に 馬子ん五助がぼったり出おうた。『なにえそげんことな』『先がせわしいき』 お医者と別れた五助は おユリを見舞うこち一なつた。親ん心配をよし一五助が聞き出えたな 好きなしがどうやらおるごたる。奥座敷ん笑い声に親も胸うなでおり一た。こん頃久しぶりん笑い声。

『どうでん好きなしがおるごたるき』『そげんこつじゃつたんなもう』 秘策があるわな任せちよきな。やんがち祭りん相談が辻ん広場じあるき そんなが一番いいかんしれん。言い含めち五助。

五助さんが考えで一たな 惚れ地藏さんの姿をちっと削らせちもうち そりゅう一相手に振りかくと願いが叶うち。昔かる言よったき早速地藏さまにお願いした。削った灰を大事にもっち帰ると おユリに渡しちうまいことやんな一え ち教えくうだ。示し合わせち村ん辻来たら若いし共が 祭りん相談ぬしよる。

五助が調子ゆう話ん中に入り知恵も貸しち そんなかめ一好きな相手く側えおユリをせりやった。『次郎さん何しよんの』『祭りん箸う作よるんで』 おユリは好きな人に振りかくりゃち聞いたきははじめはチョロリ チョリ そしちドサッチ。ダマシかけられたしはタマッタモンジャネ。

おユリは五助ん側にくるとかけた事う耳打ちしち 先に帰るつもりじゃつたが。



次郎かるダマシ呼びとめられち『どげーしたんな』『ちょいと背中
中っかいちくんなー』 柔らけー手じ背中をかかれた次郎は 飛び
あがっち喜くうじ 『背中がムズムズシチモテン』 ち慌てちよる
おユりん跡っ追いかけてーた。おユリも嬉しいやら恥ずかしいやら
でんなんか願いが叶うたような 天にも昇るごたった。

五助さんも『こげー効くたーしらんじゃつた』 ち瓢箪かる駒が
出たごたる二人ん仲に嬉しかつた。村ん若いしたちも『やっばそう
じゃつたんか』 ち納得もいったごたる。村ん祭りに花が一つふえ
ち 存分おごらせにゃのや……いいことじゃのー羨ましいのやち
皆も喜びっ分けおうた。

五助さんの知恵が地藏さんの御利益と 一緒になった惚れ地藏さ
んにゃ 今日も誰かが参ったんじゃろう線香が 花があがちよつ
た。昔かる旅の人たちが疲れた足を休ませ 苦痛の願いを和らげる
ために 念じた祈ったことが通じて助けてくれた そんな話が風に
伝わる惚れ地藏さん。

平成10年の歳末助けあいチャリティショーで 野津原町文化協
会が 出演した喜劇の原本。全4景場面に脚色。

.....

方言劇 『苦勞は楽のはじまり』

出征兵士家族の苦勞は表向きゃ皆に大事にされよつたが 裏側じ
ゃ言うに言えんような辛さもあつた。今年も雨が少のうじ水が足ら
んじ 回し水。それが時間の都合じゃ夜中になることも多い。こい
さも夜中かるん番になった。蚊はさすしヒーロはつーじ来る 水は
なかなか延ばんき何べんも田のくるー 駆け回る。

『俺が見ちゃるきチョイト眠りゃいい』『おーきに でんいいで』
うっかり甘えよると次にゃどげな無心ぬ ち思うと空おじい。あんま
りはっきり断わると 誰も見ちょらん暗すみじ何さるるか解らん。夜
が更けちこんまま帰らにゃどげーしゅうか…オズオズしよったら懐中
電灯ん灯がこっち来た。

村ん辻じ五助さんな大けな風呂敷うかるうた 嫁ごと立ち話しよる。
『喧嘩もいけんどチッタこらえにゃの』『腹たっち帰ろちかち思
うたが親が心配するじゃろうき』ヘモドッタゴタル。ソレガイド
五助さんに諭されち 『帰っちゃろう』『やんな強いの』 五助さん
も両方ん気持ちゃゆう解るごたる。

喧嘩しち帰れるるそげな贅沢はいいほう 見よ帰るにゃ帰れんじ泣
かにゃならんしも。戦時中じゃきち言いてえ事も言えんが 影じ贅沢
三昧んしもおるき腹も立つ。兵隊に取られち苦を見よるに 調子んか
お一言うち寄ちくるしも困るが。女じゃもん時にゃ優しゅうしちも
らいてーに それも儘ならん。

そっこうするうち一終戦になった。戦地かる帰ちくるんとよかつた
子供も安心しち自分も苦勞があってん これからは気が休まる。
そり一農地が開放になちシガミチーチョツタ田が 自分がんもんにな
った。男かる言いよらるる事もねえじちった一寂しいが。それが人
ん道じゃろうき。なえあんたと樂がして一な。いいど。

魚ん配給があるちコゼニうサライアツメチ 貰いに行くちった匂
いんするごたる 切り分けた分ぬもらいで一た。子供と久しぶり煮付
けん香りが家ん中お流るる。何か人間らしい
そげな想いがしたが。それももう夢になち
過ぎちしもったごたる。親父が帰っただけじ
家ん中がシャキートしたごたる。



『留守ん間で一ぶん世話になったなえ』『いんにゃ苦勞したんじやろう』『いいこち一危ねえ目にゃあんまり』『それがいいのや』あいさつに来たき五助もイランコタア言わんじ 長え間ん兵隊に出た苦勞をねぎろうた。よかったよかった小作も開放しち 晴れち自分んがん田も出来たき。

子供んやつがいつときゃ懐かんじゃつたが ゆうしたもん自分ん子じゃもう甘えち。あんコナサレチ泣く泣く水番しよった事がひとはずみん事じ危なかつたけんど。泣きてえごたる日も夜もあつたが 五助さんにゃで一ぶん助けちもろうち。目に涙お浮かべち見えんごつなちしまう。

考えちみりゃあんセセロシイシモ他所に行ちしもうた。いやらしかつたけんど 他に行かにならたあ気の毒でんある。ゆう喧嘩しよった夫婦もこん頃あ 中々甘えたらしい夫婦じ皆に当て付けよる。戦争が人間の運命も心も変えちしもうた。そげ一思うと自分な変わらんじゃつたぬ 嬉しいごともある。

今日も水回りしながらあん晩のこつ一想いで一た。魔がさしちよりゃ 供出に手伝うちもろうちよりゃ。いまん幸せはなかつたか。暖かく見守ちくれた五助さんのヤシボ髭 いや大将髭んごたる。こげなしが里におるき無事に切り抜けた戦争時代。村ん若え娘たちも操守ちいい相手う捜さにゃなえ。

うっとどうはもう花が咲いち無理やりに散るが これからん若えしは戦争がねえきシャント甘えらるる。いい時代になったもんじゃち思うがどうじゃろう。やんどにも苦勞かけたが戦死せんだけでんよかつた そげ一思ゃ腹も立つめ一。これかるは頑張ち今までん苦勞取り戻さにやのや。今年しゃ米もゆう出来たごたる 五助さんの馬子歌が聞かるど。

水枕に焼酎を入れち売りに来る。ちったあゴムん匂いがするけん
ど 手にはいらん飲みてえもんじゃき 米と変えちくるるか。米が
欲しいばかりに警察ん目を潜っち 朝早うかるバスに乗っち来る
。変えちもろうた米う運ぶのがオオゴト 田のくろをつーじ行くと
巡査が待ちよる。

すまんけんども子供が待ちよるき 言い訳するな一年季が入っ
ちよる担ぎ屋。そん手は食わんち取り締まる警官 それでん人間じゃ
もん美しい着物にゃ 目もつぶしてえごたるが警官の辛さ。ヒビ切
れした足じ本当に子供んために 買いに來ち取り上げられる無念。
米が出せれんじ強権発動を受けたしもあった。

過ぐりゃもう笑い話じゃのう。五助さんもあん頃う想いでえち
助けてえが自分にもどうにもならん。情けねえ時代があっち娘ん
おみつと雑炊かのお粥じでえぶん苦勞もした。それでんなまかた生
きちよつたき 命は寿命はあるもんじゃのう。色に迷うち夜逃げし
たしは今頃どげーしようか。ひょいと頭うよぎる。

ゆう辛抱したきのや もうしょわーねーわい。人間らしゅうしち
りゃやっぱ こげない日もあるもんじゃ。錢う借っちよつたしも
払うのが でーぶん楽になったのん戦争に負けたからか。平和にな
っち失うたもんもあったが 残りもんもあつたき我慢すりゃ 又い
い事もありそうじゃ。今日は馬子歌う歌うど。

一時ご無沙汰しちよつた旦那も 兵隊かゝる帰つたき存分取り戻し
に張りこむがいい。へりゃせんきのーじゃけんども無理うすると腰が
タゴカシち 使えんごつなってん知らんぞ。まあぼちぼち使え自分
がじゃき 心配せんでんいいわ。取らるるしんぱいもねーき。肌
が待ちきれんじ疼いたじゃろうきのう。

流した汗が人生の糧に

坂道を走るごつ学校かる帰いと 汗ふきながらトイモを一つ口に せりくうじ炭小屋につーじ行く。どうあってん二俵ん炭う売ちこにゃ それが今自分がせにゃならん仕事でんある。中々売れん日もありゃ待ちよつたち 買うちくるるしもある。山道う駆け下れち汗が股くらまじ流るる。

『今日はいらんけんど中んしがいるち言よつたで』 救わるる想いじそき一行くと 『ゆう働くなあ冷てえ水飲みなー』 ちコップについじくれた。白砂糖が底に見ゆる……なんち心くばりしちくれたんじゃろうか。子供ん目にも涙が流れち 働いた汗が将来の糧にせにゃち思うた。コンシモ子供ん苦勞が解るんじゃろう。

ランプん下じ夕飯んダンゴ汁が 家族ん命も支えちよる。爪に灯をとぼすごつ働く父親とやりくりする母親。回りんしに気を使いながら世話になる気がね いつも人の顔色見ち暮らす境遇。開拓に入ち田畑は確保したもんの人ん心まじは想いんままにならん。粉すりん機械が担ぎ回す時にや 余分に気苦勞もあつた。

子供なりに親の苦痛を感知すりゃ 栽培技術も研究するごつなるき 珍しい機械も入ち音うたつると 欺瞞の目が向けらるる。朝早うかる試運転すりゃ能率があがち 学校かる帰ると又取り組む日々。培土機が活躍カルテベーターが田んぼに活躍しよる。手先が緊張しちはかどる仕事に悦びが湧き出る。

タバコン取り入れかる乾燥にゃ夜もゆっくり 寝れんき時間があいち勉強が出来る。カンチョロン揺れる灯が震いたたする 勉学は見知らぬ土地じ窮地かる抜け出る 英知もアイデアも育ち来た。ムシロに一夜を過ごし親子が惨めな年月を でん家族が幸せち思う気持ちがありゃ一人間は強いもんじゃ。そしちいつか悦びも。

舞台劇 『帰って来た人の真心』

仕事に雇うち住み込みじゆう働きよったが ひよんな事かる若い
もんと口論になっち出ちいっちしもうた。五助もで一ぶん世話した
が そんな気持ちも通じんまま ゆう見かくる小引き出しん小銭まじ
持ち。『悪げはなかるうき』 人んいい五助は半分諦め半分ムゲ
ネーチ もう忘れかけちよつた。

小雪が舞う寒い日娘ん おみつが使いかる帰ったら壁なしにたっ
ちよる。怪訝に思うち裏口から入っち知らすと 五助が表戸を開
けちみた。『だれな そげん所いたちよらんじ中え入りゃいい』
肩ん雪う払い落とすと 『申しわけの一じ来られた顔じゃねえが』
ち 畏まり恥じ入った物言いに五助も驚いた。

思い出せんし顔も知らんき何ものかち 思案した。あれかる20
年も昔ん事じゃき見ちがゆるような若えし。実はこれこれと話がと
けで一た。チョコットした事じ喧嘩になったが 世話になった五助
に打ち明けると心配する。そんなま黙っち出ち行っちしもうたが
そんな時ヒョイト目にした小銭を握っち 負い目じゃつたち言う。

何とか頑張っち借金ぬ返しお礼に帰る そげな夢が今日まで遅ら
せちしもうた。ひれ伏しち涙流しながら悔い反省する若者。五助も
一時は腹も立ったが過ぎれば そんな時ん気持ちう察すりゃ納得も。
解ったきいまあ上がっち茶でん 勧められるままに甘えられぬ自分
の過去。お詫びに差し出した包みには 借金の分と利息それにお詫
びん気持ちも 入ちよつた。

『ゆう解ったき貸した金と利息は貰う』 が後は受け取れんきな
これからん 生活やら仕事に役立てるがいいで。
五助に言われて引き下がる訳には行かんき お礼
の気持ちと包みは受け取っち欲しいと。言い張る
人間性に五助も折れた。



話によりゃ苦勞しながらご恩返しせにゃち 真剣働いち何とか今
小めえ会社も創った。役に立つなら何でんして返してえき 働きて
えしがありゃ五助さんの口利きなら いつでん受けいれるき。弾む
気持ちとお礼がしたい想いが 漲っちゃった。それだけ本人も努力
したが暖かっ迎えちくれた それがどんくれー嬉しいか。

『気持ちを通じちよかった これからも人ん気持ちっ大事にして
な』 『肝に銘じち生涯大切に 小錢ん事は胸に刻んで頑張ります
き』 こらえちょくれ…それは言いたい気持ちを五助は遮り 昔ん
話はハジカにかかったんじゃき 二度とかからんごつなえ。あげな
病気は悪いきな。

亡くなったオバサンの墓参りん許しを貰い 深々と頭さげち過去
ん無礼を詫び 真面目に生き抜く事う誓った。おみつはまだ生まれ
ん昔ん出来事じゃつたが どこか兄さんでも帰ったごたる感触が
するんも年頃じゃからか。凜々しい青年ぬ見送る親子に 正月には
遊びくるきーち笑顔っ残しち。



初夢楽しや

一富士 二鷹 三なすびち昔かる縁起んいい夢じゃつた。じゃが
四扇までじゃそうな。別の言い方にゃ 一富士 二猿《去る》 三
宝引きもあつたそうな。はじめは節分かる立春にかけちの朝方に
見る夢ちいよつたが…12月31日の晩かる元旦の朝までん夢。元
旦かる2日にかけて見る夢。2日かる3日にかけて見る夢。なんか
いろいろあっち 所でんデー分違うごたる。宝船ん絵を枕ん下に敷
いち寝る話もゆう聞く。

◇◇NHKTV放送かる◇◇

舞台劇 『情けは人の為ならず』

今年も米の出来がわりいが宛にしちよる 義兄弟に新米う届けちやらにゃ。庭さべん切りがち一た親父が言う 領いち解ちちよるち気持ちん中じ返事すりゃ 家内んしん想いが同じんごたる。毎年米が行く代わりにこんだ野菜う貰う。そげな流れん中じ助けおうち今年もあとちっとうになった。ハジカイーのもあといつとき。

ちっとしか出来んにすまんなあ 心配しながらうけとった米にゃ人ん心ん温もりが。いいじゃねーな 無けりゃ無えなり一何とかなるもんじゃ。笑う横顔には喜ばれたそれが どんくれ一励みになるか。麦とダンゴ汁でん百姓は干死にゃせんきな…大声じ笑うもんじきツリコマレチ笑うちしまう。

務めを持ちちよるき忙しいじゃろうに ケックシャゆう作るき米も喜んじ出来たんか ベンセンキ下も少ねえ。検査も等級がいいき弾みがいい。娘ん成人式にゃちったハリクウジやるか 年寄りが銭うサンニューしちよる。娘が甘えた頃かる抱いて寝たバアサンも若え頃う思い出えたんかヂイサンぬ 横目じ見た。

忙しかろうき祝いに赤飯ぬ炊いち来たで。近所ん仲良しんしが大けなサカイジュウに 山盛り持ってち来た。ダマシん事い嬉しいやらタマガルやら。済まんないこげな嬉しいこた一ねえ…親は子の事ばっかりに飛び回り 忘れよった人間の大事なこつう思い出させた。在所にもモノイイントキ持ちち行くがいい。

ほんのチョコットした事じゃが 心憎い仕種が日ごろん付き合いん中じ 優しう育ちちよるぬ思うと涙がこぼるる。娘ん幸せが自分どうまじ包んじくれち 人にゆうしちよきゃこげん事もあるんか。小雨が止んで晴れ着がゆう似合うのん 娘ん心ん中に人の暖かさが染みこんじよるき一か。

赤飯ぬ炊いち祝いに来ちくれた方ん もんが入院したち聞いた
もんじゃき夜中え見舞いに行く。大事じゃねえけんど日ごろん無
利が効いたんじゃろう。顔色もいいが仕事が苦になり気になる。
心配せんでんこんだんヨコイに加勢しちやるき。そりゅう聞いち
安心したんか それかる2日も眠り続けたそうな。

遠い親戚よりも近くん他人ち言うが 気心ん解ったしなら何で
ん打ち明けち話し相談も出来る。時にゃ夫婦喧嘩ん話やら 子供
ん事やら泣いたりわめいたりしち。それが親友親しい間柄じゃろ
う かけがえんねえ人間関係かん知れん。親子にも言われん事
でん話せるる事もあっち。信頼が強い味方になつたりもする。

卒業まじ銭がかかるが親ん務めじゃ 卒業すりゃ嫁ごに行くか
知れんけんど宿命。それが親子じゃろうな。毎年米う貰うお礼に
学資うちと贈るき使いなあ…助かる 甘えてんいいんかなあ。
あん時ん嬉しい事う思やこんくれん事う加勢せにゃ。ほんの気持
ちじ送りよったんが 思わん助け船ここは甘ゆう。

知るか知らずか娘はチョット贅沢な生活じゃが それも時勢な
ら仕方あるめえ。加勢しちくれよんのど…聞いた娘も心じゃ感謝
しちよるごたる。卒業式ん日あんまり帰らんき心配しちよつたら
何のこたーねえ そこんしに一番先いお礼に行ちよつた。心
の中じゃ申しわけねえち 思うちよつたんじゃろう。

情けは人ん為じゃねえち言うが 親ん撒いた種が回り回ちち芽
が出ち花も 咲いたんじゃろう。知らんなかめえ子も大人にと。
あつたなえーヒョイト思い出したごつ で一分昔ん事になるなあ
笑顔が こぼれた横顔には皺が小気味ゆう並んじよる。苦労した
んじゃろうが知らんふりゅうしち いい顔。笑顔。





野津原の 盆踊り

野津原町の盆踊りの流れ

- ★ 祭りばやし踊りが明治38年かゝる 清正公まつり山車舞台じあったち言うき これまじも踊りがあったんじゃろう。となりゃ口説き手踊りがあったに違いねえ。手に何かもち踊るこた一昔かゝるあったき 野津原んしも結構踊りが好кинよゝな 気もする。嬉しい事がありゃやっぱ踊ったじゃろう。

- ★ そんなと 山仕事んしが入ちくと そんなし達が持ちこんだ唄があち踊りもついちよつた。そんいい例が『竹刀踊り』じ木の切り出し仕事に來たしが 泊まった宿じ近所ん若えしに教えたもんじゃ。左エ門なんかもそん例。踊り方は独特のもんじあったろうが 土地にあわせち工面したかんしれん。
⇒ 矢の原在住の田崎奈良熊さんが伝承 中部小学校芸能文化伝承クラブに指導 運動会の集団演技でも披露。福祉大会にも舞台を飾った。

- ★ 戦前の盆踊りにゃ 昔かるん口説きが主じ はやりん鶴崎踊りもがいと踊りよった。肥後領じゃつたこともあるが 府内に近かつた交流があった 買い物も多かったことなんか ぞげな風潮ん素地を作ったんじゃろう。『アリャヨイショコリャ』ち 独自の合の手は 馴染みやしいき。
- ★ 戦後ん踊りにゃ新風が吹きくうだ。鶴崎踊り何かはかがせんけんど 野津原にも新しい替え歌も生まれた。野津原村ん頃に出来たのん代表作は 『東は胡麻鶴 西は詰』 今市が合併前ん話じゃが 村内ん名所旧跡う唄いくうだオリジナル。そしちレコードが出始むると そり一合わせち踊るもんが多うなった。
- ★ 青年団が元気に活動しよったき 『青年団盆踊り大会』 がはじまり車社会た縁どいい頃じゃき 歩いちスタコラスタコラ 皆集まること約500人。一緒ん踊りは『野津原音頭…替え歌ん分』 やら鶴崎踊り。そり一各分団《各地区の青年団》 が自分方んもぬ一踊る。
- ★ 戦後間ものう負けち悔しい気分ぬ追い払うち 『七瀬舞踊団』 が出来た。新町におった熱心なしが肝いり物好きが集まっち 頑張ったき心が和みやる気が出ち来た。青年が張り切る事じ地区《部落ちいよったが》 が活気が出ち来た。『素人演芸』が流行ったのんこれがキッカケ。七瀬舞踊団にゃ玄人じみたしが熱心にするき 益々上達しちいった。
- ★ 進駐軍に許可をもらわにゃ開催が出来んき 大分まじ貫いに行くとな『勘太郎月夜歌』は許可が出らん…菊が栄える…が悪いそうな 難しい時代じゃつた。世話をしちくれた日さんも『仕方ねえのや』ち 悔しがったが逆らう訳にゃいかんき。そんな頃に子供会も生まれち盆踊りにゃ仲間入り 賑やこうなっち練習を往還じ《現在の国道》したもんじゃ。車が来たきよけにゃち言うとな『きりがつくまじいいで…見よるき』 ち待っちくれた。

- ★ 青年団と子供会の集団が盆踊りの中心じ 各地は盆には賑やかになつた。踊りも指導者が秘策う練つち盆踊り大会は盛會に。晩遅う皆じ歸る坂道も若いしにゃ楽しい一時 昼ん仕事んだりもトンじしまうごたる。踊りに『木曾節』なんかも入るごつなり レコードが入るとそれかる取った歌に 振付もする。

- ★ 新しい『野津原音頭』も出来た…宇曾群山くれない染めて……マンドリンを主軸にした樂器演奏かる レコードにもなつた。そんな頃かるぼちぼち農業も近代化しはじめち 若いもんも都會に流れでた。『炭坑節』に哀愁があつたが 近代化ん波じそれも斜陽になつち 一頃一俵増産のかけ声も減反の声に。

- ★ 踊りもレコードから流行るもんに様変わり。チキリンバヤシが大分かる入ち来ると ドンドン都會ん風に変化しちしまふ。七瀬舞踊團も姿が変わり 舞踊教室が生まれち弟子の勉強が毎週はじまち来る。やんがち幾つもん教室が出来ち 別れたりしながら 『一村一品音頭』 に移る。

- ★ レコードに代わちテープが入る。青年団は姿がうすうなつたが 趣味んグループが各地に各様の形じ生まれる。やんがちすると故郷生まれん唄も出て来た。昭和ん終わり頃にじつと出た『七瀬馬子唄』 が平成んはじめに発表されち 野津原ん現在んオリジナル曲になつた。TVも普及した現在感覚ん時代の中に 馬子唄がけっくしゃ受けたごたる。作曲した加藤正人は民謡の世界じゃ一人者じ 以前県内ん民謡調査じ世話になつたしの たつてん願ひじ作曲を引き受け 町内を二順した挙句に四辻峠じ曲想を湧かせたち言う。やんがち踊りも振りつけられたが 続いち出来た『七瀬音頭』にゃ琴ん伴奏も入り 盆踊りん指定曲になつたごたる。町内ん名所産業旧跡文化財人情なんかが 盛り込まれちよる。

★ 各地で今も踊らるる盆踊りは 故人の供養も仏に対する感謝もあっち 少のうなった青年団に代わっち 婦人団体やら地区が取りしきっちゃう。慰霊祭をしたあと皆で気軽に踊り ドブク飲うだりした昔が懐かしい。ヤセウマが配られ涼しい風が肌ん汗う快く吹き抜くる 夜ん一時ゃ若いしにゃ格好ん晩。

★ 盆踊りん帰りがき久しぶりい合うたき 寄り道うしち話が弾むと夜中えなっちゃう。親が心配しち寝つかんがおけち待つ訳にもいかん。目をあけたりつぶしたりしち音がすりゃ安心する。義姉が裏木戸うあけち気をきかすると コソツト戸を閉めた。母親は苦になるきヤーリ小便に出る 壁なしん小便タゴに出らんに一じっと 尻うまくっち寒うもね一んか親じゃのう。

★ 地区《昔は部落ち言いよった》ん盆踊りにや 仮装しち踊るきゆう解らん事がある。どこんしな 皆に聞かれち何えちタマガルごつ 化けたもんじゃつた。男が女に女が男装しちそれが又楽しみじゃつたんじゃろうが。ツマミダンゴをハラヒトツよばれち ドブに酔うちしもうち干し草ん上い寝ちしもうた。

★ 日ごろ見るた一違う可愛い姿ん娘 浴衣がゆう似合うもんじゃき見違えちしもうた。もう嫁ぎやってんいいな 誰かが言うたらこん秋にやアルクンと。いつん中間に決まったんか他所ん子はふとりが早え。年頃ん子を持つ親にや心配も耐えんが いつまでん話が一でん困る。盆踊りは格好ん嫁選ぶん場。

昔ん情緒んある盆踊りは影が薄うなったが 浴衣に下駄を履くそげな姿は農村の風物詩に。涼しい風に湯上がりん女ん香りはいつ 誰が どこじ 見てんいいもんじゃ。唄が流れち月も出たごたる。雲に隠れた時い二つん影が動いたが 詮索はせんほうがよかろう。年甲斐もね一ち恨まるるごたるき。

★ 現在の野津原での盆踊りの流れは かつての肥後領 岡領 天領なんかを 合併したものの集大成かんしれん。じゃき大野ん文化 直入ん文化 肥後ん文化 そしち江戸 京ん文化も生活ん中に入っちょるき 踊りも素朴 優雅 苦勞 悦び 窮乏 我慢 発展なんかも 盛り込まれちよるごたる。

★ 想いでに頭にこびりついちよる 地区ん盆踊りかる幾つか拾うち見ると 『東海の顔役』…ち言うレコードに振りつけした。『桜島夜曲』…に振りつけした。口説きん…『竹刀踊り』 が当時ん青年団ぬ中心に踊った 村青年団盆踊り大会でん印象に残っちょる。

東海の顔役…竹を二枚指に挟んじカチカチ鳴らし 調子を取る手法は素晴らしかった。桜島夜曲…子供に編み笠を着けた衣装に ガラス破片を縫い着けちキラキラ光るんが 途中じクルリ回ると時艶やかに光る。竹刀踊り…労働者から入った竹刀を使う 3人ペアの踊り。青年団華やかな時代の遺産。

★ 杵ヶ原 高沢 石合 練ヶ迫なんかも文化の先進地。回りん地区んしと交流しち盆踊りは 盛んじゃった。直入文化が残る練ヶ迫なんかは川を渡っち 見に行ったり来たりしたごたる。いつまでん櫓太鼓ん音じ寝られんじゃつたち。踊り見に行くにわざわざセッタを買うたとか。

※ 練ヶ迫じ踊られた盆踊り唄かる…『ごんざ口説き…二つ調子』
肥後の熊本おやなぎ町に ヨイトセドッコイショ
ごんざどのとて徳者がござる アラヨヤサノセヨイサノサ
徳者すれども世に瀬はござる
先のカマサマ長々ご病氣 ※ 野津原方言集…後編から
再掲しました一部です。

⇒⇒⇒ ちょいとっぷく…聞いた話 見た話 ⇐⇐⇐

昔かる男ん飯わき 女ごん産わきち言う。男は荒仕事うするき飯ん後ぐれーは ゆっくりヨコウがいい。牛馬を使う事が多かったき牛馬に 腹ひとつダルモンぬ食わする 意味あいもあつたんじゃろう。女ごん産わきちゃ生むまじ働いたき セメテン生んだ後ぐれーは ゆっくりヨコワセテエ心くぱりかん知れん。飯食うたあたゝ腹を右下にしち寝るが いいそうな。ナガせん頃寝ござ打ちするち 言いよつたところゴザ買いが慌てち『ゴザわけちょくれ』 ち飛びくうじ来た。…☞寝ござ打ちたゝゆっくり昼寝する意味☞

様ちゅう字の右下にゃ こん字のごつ水ち書くが 次ち書くしもある。また永ち書くこともあるが みな読みは一緒じゃが 水 次 永ち 順に敬意を表する順番そうな。

野津原ん事うどげー思うち聞いたら 自然が美しゅうじ人情が温こうじ 空気が美しいち言う。森を大事にせにゃなえ ち言よつたが ネンジュおりゃそれも気にならんごつなるんか。

盆踊りにゃ薄化粧しち出るんが礼儀ち言う。盆休みでん草きりしたアゲクに出るなんか 忙しいもんじゃきソッココ拵えち出ると年寄りしが気を使うち『こっちきな』 影んくらすみ引きくうじ 頭ん毛を撫でつけ顔ゝぬぐうち 『これじよかろう』 ち押し出すなんか 見ちよつち嬉しい。年頃ち言うてんまだウブじゃき。

秤 計 量 測 図り はかり……はかりかたにも いろいろある。手ばかり 口ばかり 舌はかり 目はかり 足はかり 感情はかり なんかそんな時 物じで一ぶんある。三本指つまみは約1グラム ひとニギリじ小指 薬指を離した残りは小サジー一杯分。三合飯が大人ん一日食いち言いよつたが。クラガイに詰むると三合飯がみな入るとか。

干支ん始まりはどうぜん お釈迦様ん亡くなった時い駆けつけた
順に 決まったちゆう話。耳んいい牛が一番先い聞きつけち つう
じ着た。ところが風ん音じタマガッタ鼠が飛び乗り 着いた拍子に
飛び降りたもんじゃき 一番になったそうな。猫かる聞かれたけん
ど教えんじゃつた そん猫も犬に教えんじゃつた。

鼠は今でん猫かる追いかけられ 猫も犬かる追い回さるる。猫が
逃げ回る間に先に行き 1 1 番目に入ったが猫はそん中にゃ。ツバ
クロは拵えちよつたもんじゃき 叱られち鶏かる『土食うち水ぬう
じょれ』 ち言われ今でんそげえ鳴いちよる。どげなん時でんつう
じ行く 来てくるるしがあるなあ幸せ者じゃが。

人ん名字にもいろいろあるもんじゃが 十八女ち書いち ネゴロ
サカリ ち呼ぶ。それぞれんいわれもあり難しのん頷くる。

昔ん距離じゃ 1 里が 3 6 丁 1 丁が 3 6 間 1 間が 6 尺 現在風
に言うなら 1 里が 1 2 キロ 1 丁が 1 0 9 メートルになるごたる
。約じやけんど。

縄文時代かるあつた栗じゃが 1 個約 2 5 グラム 5 個じ飯一杯
分のカロリーがあるそうな。中国かる入ったクリタマバチじ全滅。
昭和 3 0 年頃かる後ん分が現存しちよるそうな。

秋ちゅう言葉…あきらか あきみちる あかくなる あきない
こげなん意味が入ったのが語源ち言う。

豆は健康食品ち言うが特効もある。黒豆…解毒。小豆…利尿。タ
チワケ…排濃。人間の●●●…健康情愛子孫繁栄。笑いごとじゃね
えで 確かにちつた違うしもあるじゃろうが だれでんそげ一思う
ちよるんじゃねえ。祝い料理にも赤飯 黒豆 煮豆がついちよるし
豆が好かんなんか あんまり聞かんごたる。好かんしゃハダケチヨ
カニャ 豆男ん方がいいきのや。

昔かる歯磨きするなあ身嗜みじゃつたき 塩を指につけち磨くのも多かった。粉 ん後に半練り《純練り》が出来たのが 戦前かる出回り やんがちチューブ入りになった。歯ブラシにも舌を垢とりするもんも 着いちょつたがこん頃はあんまり見られんごたる。

柿渋は昔かる生活に欠かせんじゃつた。防水に役立つき合羽に使い 行李 うちわ 傘 網 なんかにも。酢を作る地域もあっち柿と一緒に生活に大きい役割う果たした。

殺菌じ役立つたもんにゃ竹ん皮がある。握り飯を包む 草履に作る 竹にそげな力があるき箸 せいろんサナ 牛馬ん鞭 火起こし 何かは生活必需品。

小作人の心情…自分の田を持つことの願望じゃが なかなかそれが出来んのが当世。小作じ稼ぎ出す それにゃ出稼ぎも助力しち。何とかする想いの神頼みじ 田の神 道祖神 作祭り 田植えよこい サナブリ なんかを通じち神に近づき願いを 依頼する信仰による 諸願成就を念じた。

おにぎりの美味しい食べ方…炊きたたのご飯ぬ握るのがコツ。時間がたつと湿気が回って水分が多うなり 美味しさが落つる。火災の炊き出しの握り飯にゃ 人ん愛情もこめられちよるが 握るタイミングも美味しさを引き立つるんじゃろう。

糶がら利用ん生活ん知恵…保温効果があるき昔かるトイモ みかんなんかを冬囲いにしよった。伏せもん床にも使い保温効果じ発芽を早むるに役立ちよった。蜂う飼うしは冬は回りに糶がらじ囲うち冬越しするらしい。人間の長え歴史ん中じゃ苦勞した事じ知恵が湧いちくるんじゃろう。

ちょいと耳う傾け 目じ見回す時にゃ思わん自分がん知恵になる事が多いもんじゃ。それだけ儲かったんかんしれん。

五馬子咀 街道話

呼 呼

呼 呼

呼



七瀬川哀歌

うちの母さんは 四十五で死んだ
七瀬川くりゃ 思い出す
村の一番の 喜衛門さんの
百姓なごどんの 子に生まれ

うちの父さんと 引き合い夫婦
苦労したちゅうち 聞かされた
母さむげのうじ わしゃ働いた
担桶をかついだ 事もある

生きてちよるうちい いっぺんじゃとて
米ん飯う 食うたこたあねえ
食わすつもりで 奉公に出たが
銭もやらんうちい なで死んだ

母さ胸ぐら むしゃぶりついて
大声あげて 泣いた日は
わしが十六 弟は十四
父さそれより 早よ死んだ

川のほとりの 住まいのあとに
冬の夜風が 身にしみる
二の瀬一の瀬 数えて七瀬
母さ生きちよりゃ 九十八

幻 想

肥後の殿様お通りじゃ
そんな声した遠い日の
証拠となるか野津原の
古き町並み茶屋の門
皆ひれ伏して見たじゃろか

今頃殿様あの世から
お戻りなされて町の衆
花や踊りで迎えたら
ドンスの着物が微笑みて
世は変わったのうと

云うじゃろか

お駕籠降りてしずしずと
向かうご門の石段に
優雅な姿が偲ばるる
裏を流れる七瀬川
手摺りに持たれて見たじゃろか



祭りばやし

ハー盆が過ぎたら鎮守の森にコラコラ
祭りばやしの音がする ア ソレカラドウシタ
地元若衆がわきあがる どんどこどんどこピーヒャララ

ハー今年しゃ嫁ご貰うたばかりコラコラ
初のお客も数あれど ア ソレカラドウシタ
古いお客の孫曾孫 どんどこどんどこピーヒャララ

ハー櫓太鼓に撥振り回すコラコラ
倅愛しやたのもしや ア ソレカラドウシタ
みんな見てくれあの姿 どんどこどんどこピーヒャララ

ハー婿を取るなら野津原育ちコラコラ
男ぶりよし気立てよし ア ソレカラドウシタ
神に真心親思い どんどこどんどこピーヒャララ

ハー何も知らずに参って見たらコラコラ

お御輿担ぎに驚いた ア ソレカラドウシタ

あれは昔の主じゃもの どんどこんどこピーヒャララ

春宵一刻

弥生の空は花曇り

南に仰ぐ障子岳

本宮山も霊山も

白一色に包まるる

西にあの世があるならば

亡き父母もいるだろう

心さ迷うその刹那

孤独の我に帰るなり

西に連なる山々は

名こそ知らねど日暮れには

脳裏をよぎる言の葉に

冥土は西にありとかや

実に現世の儚さは

春の宵にぞ人の知る

詩かロマンか玉響の

夢にも似たる朧雲

土の香り

小鳥の声に目を醒まし

露の細道ひと巡り

ひねもす唄う郷のうた

奏でる曲もいつしかに

名ある詩人の旅のうた

天領 岡藩 肥後領と

藩の境を図にえがき

委細さぐりて聞き取れば

江戸の昔は匂うなり

それを頼りにつづる唄

黄昏どきの散歩道

つい知り染めし村人に

声かれらけて立ち寄れば

家の古老の語り草

土地の歴史や先哲を



明治 大正 大分県

大分という字を良く見れば 東西南北宇佐下毛
大きく分けると書いてある 大野直入玖珠日っ田
廃藩置県の明治より 速見て通る大分郡
一市十二の郡となる 府内変じておおいた市

地名並べて面白く 県庁所在地城下町
誰が言うたか知らないが 城の回りの武家屋敷
唄の如くに調子よく べに蓮香るお堀ばた
郡市の名前を呼んでいた ゆかし懐かし大手門

領地の民はいまも尚

あさこらさのかけ声強く 肥後の盛時を偲はんとてか
毛槍飛びかう藩境 宿所ご門を今も尚
肥後は大国豊後の果ての 残して祭る野津原神社
野津原までも我が領地 町のいらかは変わらねど
岡の藩主もお出迎え 人情変わらぬ土地の人

駕籠で揺られる疲れた殿が
今宵くつろぐおん宿は
民百姓は心を碎き
一夜の夢に安らぎを
願う思いで伏し拝む



野津原が真剣好きになって移り住む 散策の合間に古きを尋ね新
風を求めて 綴った唄の歌の数々は生きがいと。それだけ自然が
豊かで人が優しく 温かみがある。その昔には府内の小京都と
呼ばれ 緑とせせらぎが人の心を育ててくれた。

あんな唄こげな唄

そうさんがソウ しらめがソウ 三匹ソウ はいよるソウ 取ら
んかソウ にぐるどソウ そげーゆうなソウ 今取るきソウ。

もーしもーし床屋さん 頭をはいからにしちおくれ 後ろう短
かう前長く ちったー別嬪ん好くように。

向こう通る別嬪さん おしろいつけち 紅つけち つぶしん頭
あこけだらけ。

ゆうべおかしかった 聞いちょくれ 風呂場ん奥んくらすみじ
一人りゃ帯とく へこはずす。

入れちくれんな 痒うじならん 私ひとりが 蚊帳んそと。
今いく それ行く すぐ出るち 乗りゃ漕ぎだす 渡し船。
人が見ちょんに 乗れ乗れち 乗りゃ持ちゃぐる 人力車。
むそうやたらに むくむくと 下かるもちゃぐる ウグラモチ。
横むきヤシズクが たらたらと まともにさしたい から傘を。
泣くこを 無理やり押えつけ グットさすのが 注射針。
二本の指に ツツうつけち ぐっと差し込む 針ん穴。
すればするほづ ゆうなっち 後じ嬉しい 土手普請。

わしが想いは 宇曾山やまの ほかに気《木》はない 待つ。
《松》ばかり。

苦勞承知の 七瀬の川にゃ 渡る瀬もある 淵もある。
わしとあんたわ 羽織ん紐で 末は結ばれ 胸に抱く。
わしとあんたは 硯と墨で すればするほづ こゆくなる。

心に
残った
方言



言葉のあや……正逆同語《どちらから読んでも》

しんぶんし…新聞紙。 たけやがやけた…竹屋が焼けた。
 みがかぬかがみ…磨かぬ鏡。 とまと…とまと。
 おおいたおんせんおたいおお…大分温泉を対応。
 すまだまいまだます…須磨田舞い今騙す。
 なかんせさんばちいちやんここんやちいちばんさせんかな…中ん瀬
 三八一夜ん子紺屋ち一番指せんかな。

こじつけ言葉

一枚でも……………せんべえ	ひとつでん……………トーミイ
一個でん……………まんじゅう	ひとつでん……………七輪
一枚通してん……………千枚通し	一個でん……………五徳
一円でん……………お参銭	一丁でん……………トーフ
一円でん……………ごえんがある	一回でん……………ご願かけ
一回でん……………さんざん苦労	いっぺんでん……………ごわさん
一郎でん……………クロウ	ひとつでん……………にもつ
一本でん……………ゴボー	一本でん……………サンショ
ひとつでん……………はちみつ	ひとつでん……………にそくさんもん
ひとりでん……………はちまき	ひとりで……………二枚舌
ひとつでん……………クスリ	ひとりでん……………三六計
一丁でん……………八丁杵	ひとりでも……………三枚目
一羽でん……………ジュウシマツ	いっかいでん……………ろくおん
いちわでん……………シジュウガラ	ひとつでん……………六分儀
三つ上でん……………にいさん	ひとりでん……………七光
ひとりでん……………さんば	ひとりでん……………ななめ
一曲でん……………サンサシグレ	ひとつでん……………三角定規
いっぼんでん……………ニンジン	いっぼんでん……………万年筆
いっかいでん……………三三九度	ひとりでん……………ごけさん
ひとつでん……………虹	いっかいでん……………はちわれた

ついでに数を使った身近な方言を幾つか並べちみたら

イッチョン……………すこしも	イチドキ……………いっぺんに
イチンダマ……………長くある飴玉	ヒトクベ……………追加して燃やす
ヒトニギシ……………ひとにぎり	ヒトシビキ……………一度鞭で叩く
ヒトンダ……………一荷	ヒトミュウト……………一組の夫婦
ヒトカタゲ……………人をおこつる	イッコン……………少しも
ヒトムシリ……………無性に甘える	ヒトミズ……………恥ずかしがり
ヒトハズミ……………ほんの咄嗟	ヒミンズラ……………恥ずかしがり内気
イチアキ……………一回使った俵	ヒトヨボシ……………一晩夜露にかける
イッポンバシ……………死人の飯箸	イチゴウドウスイ……………少量の雑炊
イチリボウ……………里程標	イッショウメシ……………大飯くらい
イッポンセンコウ……………死人の葬儀に立てる線香	

こげなふうに方言でん数と関わり 心の楽しい言葉としち遊び心もあつたんかん。ついでにチットこじつけん言葉遊びも 書こう。

まま母が飲んでん…実母散。親父と息子が同じ日に生まれ…解る。温泉にも…コーリがある《行李》。長男でん…痔難《次男》。兄貴でん…年下《義兄》。美人になつてん…苔おつる《石けん》。叩いてん…物差し《刺す》。食べてん…寺の鐘くわん《食わん》。一回すつてん…くすり。一回こすつてん…鑪。一度でん…三度笠。一回でん…芝居《四倍》。来たに…かえる《蛙》ち言う。朝来てん…郵便《夕びん》。古いんじゃが…新聞。晩でん…麻。こんめ一穴口…銭食い財産も身も食い尽くす《さて何じゃろう》。

言葉は方言は出来た理由があつちこす 楽しうじ時にゃ笑いも誘うが身も滅ぼす。でん使う人ん心の中にゃ人を想い 人を大事にする暖かさもあつち 長い間大事に使われ育ち来たごたる。方言こす故郷の無形文化財ち思うが。どげーな。



方言談義……お医者さんが困った 年寄りん話ん事

はじめちん土地じ お医者さんが困るなあ 年寄りしとん話。気やすう話かけらるるな いいんじゃが何ち言うんか返事に困る。そこじ日ごろゃ使いなれた言葉じゃが 取り上げちみた。

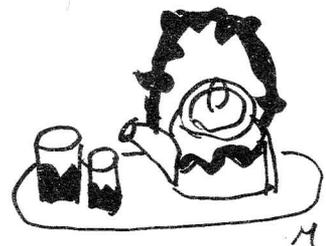
今朝がたオキノにハワキヨッタラ 腰うタゴケーチ コラユルにテンショムショ ユーロが痛うなった。ホイチカル ノキ イサブッタキーか ドーキガウツ。ナオローカナエ クニャナルガ ヨロケニャナリトウネーキ。アンバーガユーナルゴツ ツミクジッテンイイキ。ヘモドルワケニャイカンキ ドゲーカシチクンナア。

今日の朝 起きた時に庭を掃いていたら 腰の筋肉か筋を痛めて我慢するのにとても大変 足のフクラハギが痛くなった。それから急に揺り動かしたからか 胸が苦しくなるような動悸に悩まされた。

治るだろうか心配で苦になるが 体の弱い体質にはなりたくない。早くよくなるように 爪や道具で刺激を与えてもよいので いまさら元には帰れないので 何とかお願いします。

方言が出来るまでにゃ人間の生活ん 知恵から体験から語らいかる生まれた 出来た 育ったんじゃろう。お医者さんも方言じ話されちチョイト 面くろうたじゃろうが ゆう意味を聞いち見りゃなるほどち 気持ちも通い解るんじゃろう。病気や怪我ん時にゃゼスチャーでん 気持ちゃ通じるじゃろうが 言葉たゃ難しいもんじゃなえ。

方言単語は『野津原方言集』に入っちょるが お医者さんとんやりとりがあったき ちっとう並べちみました。ちった一地域でん違うが参考まじ。人間生活ん中に温もりんある方言などこでん いつでん人ん心う優しう包んじもくる。それが方言のいい所じゃろうがなあ。



カブスル……かぶせる かける	ユニイル……お風呂に入る
タノンジョク……頼んでおく	キカユル……着替える
シマイシゴト……区切りの仕事	ネスル……寝せる
ヨコウ……休む 休憩する	トボス……明かりをつける
コシュウオロス……腰かける	ヨナベ…男女の交わり…夜の仕事
ヨコワスル……休ませる	フクル……時が過ぎる
ヒイチカイル……引いて帰る	ブラサグル……つりさげる
ヒリョウヤル……追肥する	シマウ……終わり…なおし込む
カタズクル……かたずける	ナオシコム……しまい込む
ヒリョウマク……追肥する	ハワク……掃く
オロス……下に物をおろす	ツク……到着…つき当てる
タデチャル……湯で暖める	オクル……起きる…腹一杯
ヤル……あげる	サグル…捜す…手で触りまわす
アガリグチ……一段上がる所	サマス……さめる…冷やす
コユル……太る 越える	カタズクル……かたずける…整理
タブル……食べる	モヤス……焼く…焼いてしまう
セリアウ……押し合い	フク……磨く…雑巾がけ
クルウ……叱る	シコースル……準備する
アグル……あげる	ナオス……修理する…元にする
シムル……湿る 閉める	ウツ……叩く…打ちつける…痛む
ドンコンネー……どうにも	ウズク……ずきずき痛む
ヨダキー……気がすすまぬ	ヒビク……こたえる音…振動
ミチョクレ……見てください	ハナオカム……鼻汁を取り除く
クレメーカー……頂けないか	ミミナリ……耳に異音がする
ソゲナコター……そんな事を	ハナミズ……鼻からでる汁
ヤンメ……目の病気の一種	シビレ……皮膚が感覚を失う
カサ……上手…量の言い方	メマイ……目が回る状態
ハガウズク……歯痛	メガカスム……霞んで見える
ハジカイー……皮膚がむず痒い	ヒリヒリスル……痛痒い
ユメミガワリー……変な夢を	コツジャー……大事のよう
ウーケン……大きな	スイバリ……小さな異物が刺さる

トホーモネエ……考えられない	ムゲネエ……同情…可哀相
ドウクルナ……無理を言うな	ヒダリー……空腹…食べたい
バク……馬鹿なことを	メンドシイ……恥ずかしい
スジガツル…筋肉筋がこわばる	ホラケエ……壊れ安い
ドウキガウツ……胸を圧迫	ヘチクル……当たりまわす
ムネガイテー……悩み事	タゴカス……筋肉や筋を痛める
ハリコム……高い値段…頑張る	イキガツマル……困り果てる
オチョクル……いい加減にする	シボル……取る…水分を取り除く
センショウ……欲張る	シオル……弱々しくなる
ホゲ……横車……無茶	クダス……下げる…下痢
シャーネー……仕方ない	アグル……あげる…もどす
セル……押す…物を売る	ヘズル……減らす
ハルル……腫れる	ウウスル……背負わせる
ホロセ……ジンマシン	カブスル……かぶせる
ネムレン……眠れない…興奮	ボル……漏れる
メガサムル……途中で起きる	ムドガル……可愛いがる
ネツカレン……眠れない	ヒロツク……欲しがる…食欲
ズツネエ……いやらしい	オズル……怖がる
モドス……かえす…元にする	デケン……出来ない
コサグ……道具で取り除く	フンナア……それなら
ヤレヤレ……やっと	クレル……相手からもらう頂く
オヨコイ……休んでください	ドコンシ……どこの人
ズルケ……さぼる…休む	ミソコシ……味噌をこす道具
ドゲシタン……どうしたの	クサレハル……いじわる
コシラユル…身だしなみ…作る	セガウ……からかう
ハチワルル……割れてしまう	オラブ……叫ぶ大声
シケコム……気分がすぐれぬ	シヤックリ……呼吸器の異常
コテマル……集まる…一緒に	ネトボクル……勘違いする
ホメク……上温…むしむしする	センギ……捜す
カラグル……抱えあげる	ニール……眠る
マチゲネエ……間違いした	コターネエ……ありません

アンペー……………都合よく	ナンノーチ……………なのでしょう
アンベ……………味…調子	ツレノーチ……………連れだって
アセル……………干し返す…慌てる	スクミアガル……………意気消沈する
ツミクジル……………爪で痛める	キンタマ……………男性性器部分
ヒョコヒョコ…よちよち不安定	キチー……………きつい
ダマシ……………急に	シボッチ……………力で水分を取り除く
ノキ……………急に	オオル……………芽が出る
イイニナエ……………よいのに	チュウカン……………人並み異常滑稽
ソコン……………そこの	コシイ……………欲張り…がめつい
インゲー……………いいえ	キビル……………束ねる
カムグル……………上に持ち上げる	ユーロ……………足の裏側部分
オイノコス……………追い越す	ドンノクビ……………後ろ首
ヘモドル……………元に帰る	ヒル……………排出する
タラタラ……………だらしない	マル……………排出する
ヒリヒリ……………ひどく痛む	コラユル……………我慢する
ムズムズ……………むず痒い	アッチアラレン……………予想外
ノボスル……………上気する	シボッチ……………絞りあげる
ツメテー……………冷たい	シリャセンジ……………知らなくて
ホイジ…それで…穴をあける	ナンデンカンデン……………何でも
モグ……………取り除く…落とす	ケバル……………力む
シャツチ……………無理に…どうでも	シトメン……………とめどない
ウウゴツジャ……………おおごとです	オンノカエ……………おりますか
シトメン……………大変	ヘルキ……………少なくなるから
マメ……………自由に	ホウタン……………類
ウチドウ……………私たち	オイタンシニ……………大分の人に
ウットウ……………私	ジャキ……………ですから
ツレチク……………連れて行く	チュウコターネエ…そんなはずは
デケタン……………出来たの	ケナス……………いじめる…下品に
ゴタルキ……………ようですから	コナス……………いじめる
ヒラケタ……………ひろびろ…ませた	ホムル……………褒める…おだてる
モンジャ……………ものです	ソリャー……………それは…それなら

ジョウジャキ……………言うだけ	コサガレタ……………物で削る
アタデ……………急に	コエタゴ……………肥え入れ桶
チットン……………少しも	メンタマ……………目の玉
プランプラン……………呑気に	クウチャラン……………食べてあげない
アソコン……………あそこの	アバケタ……………増え広がる
コッカエー……………ここですか	ヤケハタ……………火傷
シラシンケン……………真剣に	ツクルンジャー……………作るのです
マラマンケン……………頑張る	カンゴツ……………しないように
イサブル……………揺らす	イッタキリ……………行ったままに
ホゲチョル……………穴があいてる	ワザヤク……………わざわざ
ウベミズ……………水を追加	ヒヤケ……………水不足乾燥
シム……………しみる	ドウカ……………どうですか…どうど
ダサンナラン……………出さなくては	ソントオリ……………その通り
ナンデンカンデン……………あれこれ	ヤツジャ……………あの人
イイクレー……………調子者	モンジャ……………ものです
クズレタ……………壊れた	トテン……………とても
カヤッタ……………倒れた	スクメチ……………縮める態度
ソリュウ……………それを	ヒミズ……………気の毒がり
ザラザラ……………表面の荒れ	ツキノモン……………月経
ホイチカル……………それから	ズンド……………つまり
イミル……………増える	スワブル……………吸いつく
ジャロウガエ……………でしょうが	ハタカル……………開く…ひろげる
イツケオビ……………かるい帯	フントー……………ほんと
スクレタ……………疲れた表情	ヒチクジー……………繰り言を
ストロク……………嘘ばかり	オオッピラ……………開放的
スポ……………置き去り…ごみ	ヨダキー……………退屈…気乗りしない
ヨロケ……………病身	クニャ……………苦には
トント……………思わぬ事で	ピーント……………直感…一直線に
ムゲネ……………可哀相	サスルキ……………させますから
シイチョル……………好いている	シテーニ……………したいのに

五馬子與 街道話

呼の呼の

知な



艶かしい話う聞いた

『クルット剥いたぬ久シウ食うチョランニ』『ムゲネコサレ 肌ん
同じ温もりが食べ頃じヤッパ 若エンガいいわな』『年取ったんとそ
げ一違うなえ』『そりゃ年う取ッタンナ色は黒うナッショナルシ』『陽
にあたらんにえ』『そりゃ陽にあたらんでん黒いがえ そり一髭も多
うなっち』『ドゲン食べかたが一番ウメーナエー』『ナンチ言うてん
ムックリーチ皮うツルリち剥いち そんまま口い入ると何とん言え
ん味』

つりこまれち話に熱が入る。『調子がいいな一あんたいつ頃覚えた
んな』『うっとうかえ子供ん頃かる覚えたで うまそうに食べよるん
ぬ見ち うっとうも食べて一ち言うたら』『怒られたんじゃろう』
『子供くくしーヒロヒロするなち言われた』『貰いで一たんなそりゅ
う』『それが 丁度おらんき帰るマジ待てち言われた』

『子供でん味が解るな』『そりゃ同じ味でん違うかんしれんけど
味のいいな一 やっぱ子供でん解るき又ホシユウナル』『そげ一いい
味がすりゃ早う食いとうなったが』『ヨダレが出るゴタルなえ』『そ
う言ゃババさんどうが 屏風ん影じコソコソ何か食いよったがそれか
ん知れんな』『ヂイさんとジャロ』

『口に無理やりせりくうじモグモグももぐると ネバネバしたんが
口んはたまじ汚しち』『それがうめ一証拠じゃこと』『声も出らんど
たっただ』『うめ一き他んしに取られとうなかつたんじゃろう』 声
がしたかち思うたら 『ドイモが焼けたど食わんか』『ドイモえ食う
で』 飛うじ帰った子供がせりのけち握りしめた。ヌキドイモン皮
がツルリっと剥けち まつ白いもが出た。美味しそうな可愛い姿。

風呂たきうする年寄りがオキにくべた ドイモが
つるっと剥くるごたるな 旨えもんじゃ。色話し思
うたえ…そうかんしれんな一。



遊びい来んな

人ん温もりが伝わるごたる言葉。遊びん意味も多種多様じゃあが
こん場合の遊びい来んなた一茶を飲み 話しうするそげな呼びかけん
時。話し語らいん中じ苦勞も癒し情交も交わさるるし 愚痴も言いて
え放題に言わるる。聞かるる事じ気も晴れち おたげーに励まし合う
事じ又一時や 馬力う出せるる。時間の立つのん忘れちしもうち。

同じ境遇んしなら尚更気持ちも解る 同情もしたがる。自分に当て
はめち貰い泣きうしちみたり 相手う悪う言うちみたりするのん気持
ちが 通じ合い解りあうからじゃろう。

同じ遊びでん暇おもてあそぶ 他ん仕事ん出来ん時にゃ茶を汲み漬
け物う添えち。カルタおしたり知的才能にゃ届かんでん ほんの暇つ
ぶしん遊びが心う 束ん間ん和みん世界に誘いくうじしまう。勝負が
つきもんの遊びでん気持ちが通じちよりゃ 無理うせんじ譲り合う事
もゆうある。スラど。負けちやるわい。お前はついいのう。

若いしの場合はちっと違うこち一なるかん知れん。用事が出来ち遊
び来たら皆よこいよるき 気がねせんでんいい時と家族が許した仲な
ら こげな機会は滅多えね一き年寄りが気を効かする。『お前どうど
っか行け目ざわりじゃき』 遊びに行けと言わぬばかりに叱り飛ばす
と こりゃいい塩梅ち顔見合わせた。

大人ん遊びにゃ別ん意味フスボリ出るんじゃろう。ちよいと目じ合
図したかち思うたらもうウロウロしはじめた。『見ちよれ二人が行く
ど』 皆思いは同じ事じ視線の中じ悩ましい二人ん影が 消えて行く
とドキ一行ったやらもう朝まじしょわあなかるう。家内喧嘩にならに
ゃいいが俺あ知らんど。遊びがタマガッタ火遊びじゃこまるなえ。あ
りゃー誰かん声じタマガッタ…甘酒ん持ちち来たど けっくしゃいい
所があるじゃね一か。心配しち損ぬしたけんど それじよかったのや
。さあ飲むど甘酒じゃけんど…

そうこうしよつたら五助さんが竹田かる帰っち来た。『里山ちゃどげんことなえ』 帰りノニ言われち慌てち茶が喉じつまりかけたが 若いしん聞くにゃすぐ返事するんが 五助さんのいいところじゃ。『前にゃ山やら川やら森やらあっち 人間やらニワトリやら居る そげな所う里山ん世界』 ち言うんじゃ。

自然があっち皆が平和にイノチキうする 出来る所が里山じゃろうの。さかしゅうじフウユウジ仲んいいなあ いいもんじゃきのや。『腰巻や 誰かすぐトツパ話にもつち行くやたー』 『一人前ん女ごしん意味じゃ 早乙女ん格好になるともう一人前。赤え腰巻にゃ女です…いつでんいいで…無言の意志表示かんしれんが 成熟した女 母親になる資格の出来た証かんしれんのう。

イモジち言いよつたが 昔湯文字ちいいよつた事かる もじっちイモジになつたごたる。イモジ 腰巻 オコシ スッポンポンの時代でん冷てえ風にも寒さ堪えた 女はさすがに偉いち思う。じゃき子孫を残す大役まじ責任ぬもっち つづけち来た。男しもちった考えちやらにゃムゲネエなえ。するだけじ後は知らん振りじゃ 気の毒じゃこと。

『たたみはナシつけたんな』 『やー』 五助さんもちょいと考えたがこん前府内じ聞いた事う 思い出えたきアタデ聞かれてんしよわなかった。『普通はたたんじおいち用事ん時敷いち使う』 かるタタミ…畳んでおく…そげな訳じゃきユウ覚えちよけや。昔は皆があつたんじゃねーき祭りなんかにゃ 敷いち使うそげな時代じゃつた。

蚕かう時にゃ畳みうあげち座敷じかいよつたが。夏になると積みあげち板張りんベンガラを 油雑巾じフカサレたぬ思い出す。拭くぬ一福が来るち言われちのや。拭く掃わくなんかけつくしゃ難しい言葉ち 言いよつたでお医者さんが そうかんしれんのう。

借りた傘は有り難うと返す

雨に振り込まれち困るセワシユウ帰りて一けんど。そげな時に傘を貸してくれた時ん嬉しさ。じゃが雨がやむともう忘れちしまうそげん事もゆうあるもの。悪げはね一んじゃがチョコット忘るる。そりゃやっぱ悪いなえ なるたけ早う返すんが困った人に又役立つもんじゃき。困ったあん時う忘れんごつ。

『ボタモチう食うわんな』 何事じゃろうかち聞いちみた。ナバ木うへネクル時にゃナバツクリは ボタモチう作る。ボタ木ち言うきそげな結びつきも 念じたんかん知れん。在所んしが気を利かせち持ち来た。『今年はどげ一な』『今ん所いいごたるが雨が少ねえとなえ 困ったコンニャクじゃ』 ヒヨググラカシチ笑わするのん くたびれをやお一する為か。

ナバンじょうじゃイノチキが出来んき 炭にも焼いち売らにゃち思うと炭8にナバ2になるごたる。所がじゃ正月まじ炭う売らにゃ正月すぐりゃ 安うなっちしまうき忙しい。山をかうちまじ焼くしにゃ尚更忙しい 元も子ものうなっちしまうき気が気じゃねえ。そんかわりナバがいい時に炭も高う売るりゃ 万歳万歳じゃ。

木箱ん100斤箱に詰めち出す時にゃ 震ゆるごつ嬉しうじ笑いが そこらじゅうにコボレタ。大人でんへネクルに苦を見るごたる箱 久しぶりん炭に汚れた首筋う湯にへ一ち落とす。こげん時限っち炭も買い手が多いき値もハツク。バアサンにもイモジでんかうちらにゃなるめ一。



連れ添うち40年ばかりなるが いつも苦勞させちすまんのや。影じボソボソと口ごもるヂイサンの髭も 白うなったし馬力もちっと悪うなった。若え頃あ女ごしゅう追い回す元氣もあつたが もう卒業したごたる。

手ぶたお断り ち言うたけど

大けな荷物うカルウチ脇ん嫁ごが来た。呼び止めた五助さん世話が又 一つ転がりクウダ。『まあ聞いチョコレ 毎晩毎晩セセロシユウ当たり回すんで』『いいじゃねーな嬉しかカロウガ』『それがいい事うする頃ならよかったケンド もうそれもヨダキュウなっちセセロシイわな』『ドゲーせせろしいな』『ねんじゅう手じ蓋うする事乗せちトキドキ撫でち』

愛情ん表現じゃこと…ち言いたかったがそれぞれ個人差がある。『当たラルルんが好かんのかな』『ソゲンコターねーけど 年中になるとセセロシイがえ』『当たらんと淋しいで ソレデンいいかえ』 ちよつと返事が遅れタンヌー見ると 困った事ジャチ思うたんか。

夫婦は年中一緒ジャキいい事んジョウワネエ。悪い事んジョウモねえ 助けオウチコス夫婦ジャキ。五助さんに言われちミリヤーそれもそうじゃが。でん毎晩手ぶたサルルンモズツネーもんじゃが。『解ったワシが言うチャロウ…絶対に手を乗スルナチ そげ一言やいいんじゃろ』『ソリャマーソウジャケンド』

ちっと淋しゅうなりゃシメーカチ不安にもなった。大けな荷物は持っちかえり納まった。言われたんジャロウ…ソンばんな寝テン手を乗せんジャツタ。ところが何かものたらんじ寝つかれん…アゲエ嫌いヨッタニ不思議な事じゃ。それどころか手も足も当たらんき淋しいやら情けねえやら 自分がん勝手に恥ずかしうなっち来た。

『ドゲーナゆっくり寝たじゃろう ずーとそれがいいんじゃろうなあ』『…………』『ドゲーシタン』『やっば 手ぶたがあってんいいわ インニャなけりゃ淋しい』 そんな晩かの手がアッキ当たるけど大駭かいち寝たそう。安心したんか次がいつ来てんいいんか。

漬け物がうめー理由

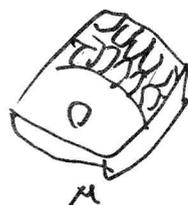
『ここん漬け物んなオトロシ旨えのや』『そりゃそんはずじゃいい重石があるきじゃ』『フントヤノ 尻が大きいき締まりもよかろう』漬け物は難しいモンジ干し加減 塩加減 ソリイ重石加減がゆう出来たかが 決まるごたる。ココンシの漬け物が旨えな一何チュウテンバアサンが念者じゃき無理もねえはず。

そりーあん嫁ごん尻ん形が何とん言えんイイキ。オンシモさそ味がよかろう…褒めらるると悪い気はせんけど 嫁ごん味見をサスルとちよいと困る。『一ペンぐれーはいいジャロウガエ』 だれかが冗談に言うたら婿じょうが 『いいどけんど使い料が高ズクド』 皆大笑いになった。

味んイイナア干したり漬けたりに 心がこめられ Cholキノヤ。心がこもっちゃると時時にゃ見もするし 塩塩梅にも気をツクルキ。重石もゆう見ラントただ乗セ Cholキいい そげなヨダキガリりゃ困るで。あれでんソウジャロウ…具合イウ年季がはいっち化粧しち 適当に強さも優しさもあっち 食べ頃も狙わんとな。

フントそう言ゃそうじゃな一 日頃カルぐあゆう仕込んジョキヤー尻も振り回すじゃろうし 適当に汁けもあっちオツユタラタラ 気分も出るんじゃねえ。味も抜群ちゅうこちーなると思うがドウナエー。他所ん漬け物な旨えち思うが 自分方ん物ゝ慣れちシモウ Cholキ有り難みが解らんのじゃろう。

やっぱ自分方ん味が一番いいカルコス 辛抱しち使いよる事ん証明が ちゃんと出来ちよる事。あん時ゝよかったジャロウガエ。忘るるグレーよかった証拠ち思いなあ。好き好きはアルジャロウガおつゆが多い方が ソレトン無理やりが好きなしもあるそうな。



ついでに田舎ん漬け物んについち 話そうかな……

- ★ まぁ何ちゅうたてん 大根ぬ漬けたんが一番じゃろう タクワンち言う。秋かる春頃まじあるが家によつちや 夏まじもあっち ちった匂いもするけど欠かせんもん。
- ★ タカナ漬けも冬かる夏まじある。これが又漬かりダチン ちつと青い生ん頃がうめー。麦飯い乗せち食うと何杯でん食えるるが 気をつけんと腹痛う起こしクダス事も。
- ★ 白菜漬けも 歯ざわりがいいき喜ばるる。トーガラスシがピリッと効いたンドマ うめーこと。長うおくと酸ゅうなるけど。
- ★ 味噌漬けも保存食ち言わるるごつ 弁当んオサイにゃ欠かせんもん。飯んグルリー色がち一た味はなんとん言えん。
- ★ 糠付けも難しいけど 年寄りがおると具合ゅう仕込んじ漬けちやる。風味がいいき上品な客にゃ喜ばるる。
- ★ 粕漬けにゃ酒ん粕使うが 酒に弱えしゃアグル時 酔っばらうち話もある。これもなかなか風味がいいもんじゃ。
- ★ 一夜漬けにゃチョイト間に合わせに つけ込むき次ん朝にゃもう食わるる。歯ざわりもいいもんじゃ。
- ★ 色漬けにゃ梅ん酢 赤株ん色なんかが見かけがゆうじ 味も格別なもん。ショーゴイン何かのゆう似合う。
- ★ 梅漬けはどこん家でん夏にする。梅雨前にちぎっち塩と漬け込むと すぐ汁があがっちそん頃ゆう つまみ出えち食うたもんじゃ。
- ★ ラッキョウ漬けも夏前に漬けちよきゃ 暑い盛りんダッタ頃ん食えれん時役立つもん。

こげなふうに田舎じゃ農家んしが 保存食も兼ねち食い物んぬ大事にしよったもんじゃき いまでん受け継がれち味が家ごちい違い それが独特な味にもなっちよるごたる。漬け物んの味あそこん味ち言うのも 解るような気もするがどげーな。食べる事ん生活ん知恵じゃろうな。

誠になった占い

『あなたはコンメー時にゃ苦勞も多いが 年々取っちくと幸せん人生がある』 ち 子供が遊んじょる所じ『手相見て』ち言われた時い つい言うちしもった。相手が子供じゃきショワーネーち思う簡単な 発想じゃつたんじゃが。子供でんシャント胸に刻み込むそげなシャントコペーもおった。

やんがち成長しち年頃になっち 結婚もしてしもった。もう忘れかけちよつた頃 ひよつこり出会った娘に 『あん時に言われた事が夢んごと続く』 と喜んじょる。一言が励みにかつたんか それとん努力する人間性がこん人を ここまじ強く逞しくしたんかん。考えが夢がありゃー理想の夢でん 叶えられるこたーあると。

人間の一生にゃさまざま起伏がある。苦勞も楽しさも紙一重かんしれんが そりゅう潜りぬけちこす生きがいもある。自分ぬ信じち来たこん人にコツチこす お礼を言わにゃち思う。悲しい事もあつたじゃろうに 乗り越えち過ぐりゃそれも薬になる。誰でん楽ばかりゃねえもんじゃき。

そん人でん残りん人生は未知数じゃが とてん頑張る旺盛な気持ち が 転換する度量もあつちいい方向に向かうじゃろう。幸せは自分じ作りだすもんじ 人は宛にならんち言うけんど そん通りじゃろう。あたるもハッケ外れるもハッケの人生。こん人ん考え方がそげな人生にしたんじゃろう。



相手を信じちよると言うことが 素直に受入れられるき 善意に解釈も出来る。それが人の運命も変えち生涯ん 幸せ人生を歩くのかん知れん。物や金じ買えん宝はそん人にしか回らんのじゃろう。

火まわり酒はきずけ薬

寒い晩の火まわりにゃ言い訳しち チョイト一杯薬が欲しいもんじゃ。『コイサドマ寒イノヤ 気付け薬がせ欲しいのう』 誰かが言い出すぬ待つごつ 『俺も俺も』 ち声が笑い声に変わる。そんハズじゃ 一回りしち来たら手先も足ん先も 痺れたごつなっちしまう。火事になつちゃ大事ちはじめち いいあんばいに火事がねえ。

『どうか気付け薬飲むか』『じいさんに先飲ませな一』『や一 俺も後じいいど 若えしが先 飲みゃいい 又頑張っちもらわにゃ』『いいで 回るき一杯ひっかけち 横になんな一』 年寄りう労る若えしの話う聞くと 何か嬉しうなっちくる。皆が思い合うき寒い晩でん続くんかん知れん。

水が不便じおまけに 藁屋根が多い田舎じゃ火をトリトバスと もう大事。火元三代頭あがらんち 昔かる言よったもんじゃ。誰でん火は出しトゥハネーケンド 運が悪いとそげんコチーもなる。消防んしもポンプ持ちち つーじ来るけんど藁が燃ゆるな一時の間。すぐ打ち上げちソコラジュウが火の海。

腰が抜けた話も聞いたが オビトコビーラじ飛びまわった人もおったもんじゃ。オジイキ気をつき一やち言うが こればっかりゃ用心したごたってん アタデ火事に合う事もあっち困ったもんじゃ。火回りんしが寒いに気をカラゲチ 気をつけちクルリャコス コイサも火事がなかった。気付け薬ゃ安いもんじゃ。

『え一と夜があけたの一 もうショーワーネード』『じいさん先に帰んな 後あわしどうがするき』『それじいいんか』『いいでヒドカッタナ』 会釈しち一足先に帰る年寄りは 心じゃ濟まんち思いながら火事がなかった 一晩の幸せを味わいよつたごたる。今朝も大霜じゃき屋はぬくかろう。

『ほら穴にあった宝物』

ずーと昔ん話じゃがのー 五助さんの口もとう真剣見よった子供が 次ん言葉を待ちよる。腹をすかしち倒れかかった人を 家につれち帰り残りん雑炊を接待したもんじゃき 『何もお礼は出来んけど 教えてえことがある……こん山奥んほら穴に入りゃ奥に役立つもんがある』 そう言うのとヨタヨタとどこかに消えた。

嘘じゃろう どげーなった 子供たちん目はまちまちじゃが 次はどげーなるのじゃろう ヒヤヒヤしながらじっと見つめた。五助は聞いた話を思い出しながら 続けち子供たちう夢ん世界に誘うち行く。ソコンしが見送ったあと そんな日は遅いき次ん朝早う山奥に出かけた。

わけいっち奥に進むと谷水も チョロチョロしか流れん所まじ来ちしもった。と すぐ目の前に薄暗い木の根元にコンメー 穴が開いちょる。『ここか』 じっと見つめちよつたが 思い切っち中に入りち行くコチーシタ。ここまじ来たしアンシが嘘は言わんじゃろっき。ドキドキしながら暗い穴ん中に。

どんでん歩いた どんくれー歩いたか知れんが 大きな石にツッカカッタ。『イテーエ』 そきーしゃがみクウジしもったら パッと目の前が明るうなった。なんと目の前にまっ白い着物を着た人が……『よう来たなあ 心が正しいから入ってこれたのです これからも優しく生きてください』 パッと消えてあたりはまっ暗に。

でも手には何か握っていた そのまま引き返しち外に出てゆう見たら 小判を持ちよつた。きつと優しく正直な人助けに ご褒美をくれたんじゃろう。どこじゃつたかゆう覚えちよろんが 確かに貰ちよつたち言うき 人の為になる事あすることじゃと。五助さんも声う大きくしち言いよった。

『きつねに化かされた五助さん』

もう日がくれちデーブンたつた。あたりがまっ暗ジャガ馬は夜道でん解るき 心配ワねー五助さん。村はずれん松山の中にさしかかったところ 馬がたち止まった。『ありゃ出たの きつねんやつ』。五助さんなヤーリこげんめに逢うき チョイト腰うおろした。前は一寸先も見えんごたるき ドウシュモナラン。

馬がひとなき ツメガキウシデータ。『来たなミチョレヤ今に』五助さんなキセリン煙りうひと吹きすると ダマシ大けな声じカッチオロウダ。ヤンガチ般若心経を読みでーたら ありゃーいつんナカメーカ前ん松の木が 見えでーち道がゆう解る。どうでんきつねが逃げたんじゃろう。

ところが又いっとき行くと チラート前を飛ぶ姿が目に入った。『又来たな よし騙されたフリュウシュ…』 五助さんも意地が悪い こんだきつねが化かさるるこちーなった。腰にさげちよつた包う開くと 食うまねうしよったら側に女ごしが来た。『一つ食わんなウメーデ』『イタダイテンイイ』 サイデータ手をヒツツカマユルト 口う開けち無理に草鞋うセリクウダ。

慌てたきつねは暴れ周りながら 手から何とか逃ぎゅうちシラシンケンに。いいくれー相手うコナシタ頃う見計ろうち ポイと放したらコッケムクリ逃げち帰った。よっぽずこたえたんかソレギリ きつねは五助さんの前ん出らんごつなつた。それでん優しい五助さんな夜遅う通る時にゃ 思いでーち土産んイナリズシを一つ石ん上に置いち 帰ったそうな。

きつねもそれにゃ感動したんか それかるはあんまり ワヤクせんごつなつたち言う。五助さんの気持ちに通じたんかんしれんが きつねにゃ聞かんけんど。



渋柿を焼いて故郷しのぶ

子供が親におこらると決まっち 近所んしが助けちくるき。そげな人情がありゃこそ ちった苦勞も我慢出来るし耐え忍ぶ事も身にち一た。『又言うこつ一聞かんじゃつたんじゃろう』『……』『こき一あがれ 後じことわりゅう言うちやるき』 本当は助かったち思いながら 手足も泥まみれん足じアガリグチかる。

『何しちおこられたんか』『ダノモン切らんじゃつたき』『そりや悪いど やんが』『それでんコビルがね一き』『なにや コビルガネーヤ そりゃむげなかったのう よい柿ん焼いたのがありゃせんか やれ』 渋柿ん焼いたのが残っちょつたき 出しち来ちくれた。色が赤うじうまそう。

『ほら食え もう夕飯食うち帰りゃいい コトワリう言うちやるき心配すんな』 聞いた途端に落ち着いたんか腹がへっちょつたんか わしづかみにすると 柿ん焼いたぬ一食いはじめた。あっちこっち見まえ一ち 『うめ一どが がいと食え』『うん』 言葉よりも頭う大きうさげち 食うな一早え。

子供は正直なもんじ腹がオケタラ 眠とうなったんか横になると 躰うけ一ち。日暮れになったら そこんしが『どうでんここじゃろうち 思うちよつた 済まんじゃつたな一』『いいで一柿う食うたら寝ちしもったわい まめ一しちよきな一起けたらイナスルワナ』『ヒトメンガナ』『ドコン子モイッショジャ イイ子じゃね一な』

皆じ育つるごつ元気に育つち隣近所が 餓鬼大将でんおとなしい子でん みな優しい心は持ちちよるき。病気怪我おせにゃどこん子でんいい さかしゅかりゃ一番じゃ。柿ん皮が子供ん口んはたにちつとつちちよるんが ええらしいこと。灰かに柿ん匂いがまだする

き迎えに来た若え母親も ふっと故郷が懐かしう思い出された。

父親がとてん好きじユウ渋柿うチギッチャ 焼いちくれよった。
自分がん子がソゲナ嬉しい施しう 隣んしに受けちよる。巡り合わ
せち言うんか皆にゆうシチもらう 子供ん幸せな寝顔を見ると今ん
自分が どんくれ皆に支えられ大事にされチョルンカ ゆう解る。
『ほたっちょいちいいなえー』 『いいど心配せんでんいい』

そのまま置いち帰ってん気がねもねえー そげな地域ん中に解け
くーじ15年。親子んごつ時にゃ怒られたりもするが 難イからじ
ゃねー思えばコスジャ。巡り会わせた人と人とな不思議な出会いを
大事にせにゃならんち。『隣寝ちよつたで』 『しょうがねーやつ
じゃのー』 こっちもあんまり気にせんでんいい 隣同志ん関係。

『どこん子か一緒に飯食いよるで』 『こりゃー隣ん子じゃクルワ
レタキ』 『ソウナークルイモドセ』 『そげんこつー言ゃ悪いがえ』
悪口は根わねー愛情ん表現じゃき。……『もう帰るき』 『や も
う帰るんか まゝおれ 母じょうが迎えにくるわい』 『いんげ裏か
る帰らんと ババさんが戸を開けちくれちよるき。』

怒るしがありゃ庇うしがおる 隣の逃げ場も子供ん世界にゃ大事
な生活。心が通い合うきソレモ出来るし それが絆も生活の仕組み
も勉強する場に。年寄りが若いしん気持ちを汲み 若いしも年寄り
を上手に使い時には利用する。それが生活上手でんあり生活ん知恵
かん知れん。

『いつんなかめー寝ちよつたんか』 『……』 『今日はちゃんと
ダカイせにゃ』 『解っちよる』 『……柿はうまかったか』 『うん』
次んあさ親子が柿ん話しゅうしながら 大声じ笑いよつたぬ母親が
覗きながら聞いちよつた。自分がコンメー頃に父親にモロータ柿う
思い出えち。

★★ 故郷はいいもの ★★

『薪ん取り行くき学校かる帰ったら集まれや』 上級ん子が言う
と皆うなずく。よそん子かるコナサルルと 両手を広げちカボウチ
くるる。下級生は薪ん取りも草きりも いつも安心しちついち行け
る。親もそりゅう知っちよるき心配もせんじ 『怪我うせんごつ
しよや』 ち縄う持たする。

子守り 水くみ ワラ切り そげな仕事あみんな子供ん受け持ち
じゃつたき シソコナウような時にゃ 加勢に來たり手伝うかち
子守するカタデー來る。ちっと悪いゴタル時にゃ子守うシチツタリ
り 用事ん加勢をするなんか 当たり前んこつ。ドコン子でん捕ま
えち 『ちよいとコリュウしちくりー』 ち言いつくる。

竹縄じくビリキリダスナァ5年生ぐれーかる。女ん子がチーチ來
ると そんな分な先にクビッチ荷を作っちゃる。『ちよいと待つちよ
け』 ち男ん子ん分ぬ集めむる。寒い日でん山ん中はヌキーし皆が
一緒じゃーき 遅うなってん捜しまワランデンいい。親も安心しち
…遅うなってんユルータカち…。

こんめー子が本カルイに2わずつ 大げんしはもうオーコを上手
に使うち ツクージュゆさゆささせち戻っち來た。竹なわじくびつ
た大けな輪にした薪んの先にゃ 季節ん花も揺れちよる。鶴山ん陽
が沈んじシモッタ。『慌てんでんいいき足モチー氣をつきーや』
上級生は前と後ろにちーち薪ん取りん行列は 元氣に家路に急いじ
よつた。

『水車んリズムは里ん唄』

溝刈りしち焼き米をつく水車に 舞う粉と独特な香りがソコラジ
ユウを まわちよる。頬ぺたに粉をつけチョルガ まあオドケネ

エ娘も成熟した姿体を見ると もう嫁ごに行く心づもりも出来ちよるごたる。膨ルータ胸も尻も農村の風景にゆう調和しちよる。チラホラ話もあるごたるき 嬉しいやら不安なやらが交差しちよるじゃろう。親と話すあれやらこれやらに時も流れる 故郷のあん山も川もなんかジット見つめられちよるごたる。

母親が苦勞しち歩いた道は歩カセトゥネー そげな心情が何回も聞いたり尋ぬる表情に。心の中に幻の人を描きながら 親としち母とシチ言い聞かす話に素直に頷く娘。深まり行く秋う追うごつ相手とん 気持ちも通い合うんか来年春には 結バルルらしい巡り合わせの運命。

焼き米うつきながら生まれ育った 故郷ん若え人たちん中には恋人にもなっち 草きりん山行く牛を追うた事。芝居を青年団でしたあん晩。大事に支えちくれたあん人。誰でん話せんことも打ちあけち話した事も。ソゲナシが周りにイタキ今日がある 幸せ人生。

粉んかかったクモン巢が機械ん動くたんび ゆらゆら揺られち白う化粧したクモも動く。水車んリズムは軽やかな晩秋う奏でチョルゴタル。『里を思えば足踏み三度 歩く日見返る村の辻』そげなコツー想像しよると『もういいんじゃねえか』 ち言われち自分に戻った。ツキスゲになるハズジャツタ。

『もうすぐ餅つきじゃのー』『そうで ヨダキーナエ』『何言うか若えもんが ハリコメヤ』『……………』『もう嫁ごに行っちかるん話う聞いたか』『知らんで…』『赤うなったど 教ゅうか』『もういい 知らんデン』『そりゃ悪いわい婿じょうがムゲネーど…そうじゃ餅ん話しゅう いろいろ教えちゃろう』

物知りんコンシガ 餅んあれこれを教えちくれた 面白い話。

餅ん作り方にもいろいろあっちなー。おすわり お鏡餅 花餅 ア
ラレ カキ餅 菱餅 色餅 かつぎ餅 足餅 お手つき餅《落ち着く
餅》 そんな内容ギシユクによっち さまざまな形 作り方があった。
人の幸せを餅を通じて願う気持ちが 弱い人間の心を代弁しち長い間
受け継がれ 守られそれが一番いいと理解したんじゃろう。

花嫁さんが里に在所歩きする 正月歩きする そんな時きまっち餅が
いろんな形じお供する。微笑ましい風情が醸しだされち 見送る近所
んしも羨ましがる。はじめちん正月にゃ大けな鏡餅う 婿じょうが
かるうちその後う 嫁ごがチョコチョコちーち行く。嫁ん餅は久しぶり
ん親の姿が 目の前をウロチョコロしよる。

さげたまやげん荷物も軽うじ 足がテンショムショ早う動く。無理
ねーことじゃ どげー良いちゅうてん親ほずいいもんがあるか。あげ
え口はぶた言いよったけんど 他所んしと一緒になっち初めちわかる
親ん 有難さ。餅なんかどげーでんいいに早う帰るん 白いもんが多
うなった母親も 夜がねれんじゃつたごたる。待つ餅ち言うそうな。

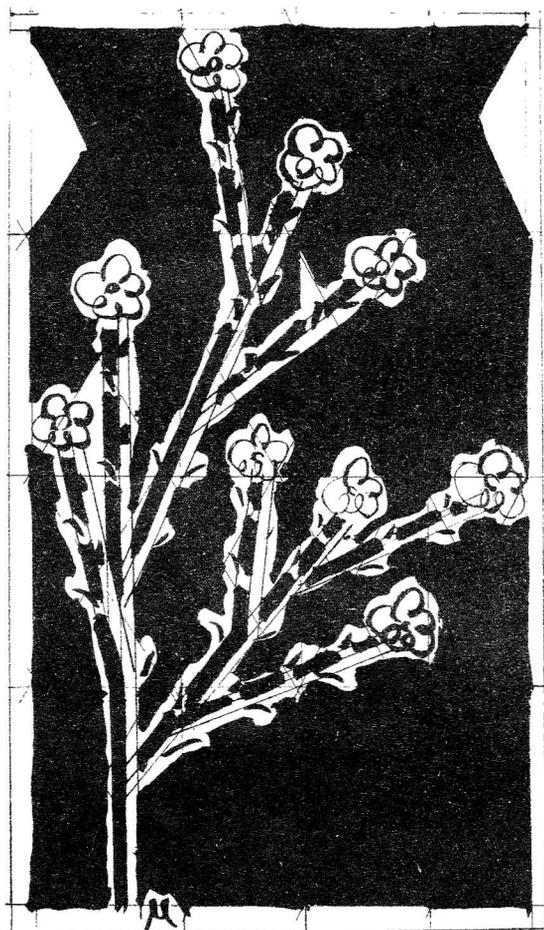
寒の餅…寒に入った頃に餅つきすると空気も乾燥しち カベが生え
難いきアラレ カキモチ なんかはこん頃につく。百姓大所帯の時代
は8斗くらい《約120キロ》もついちよつた。座敷にムシロ敷いて
子供が運び番 乾いた頃にはムシロン形がついちよつた。乾くとカマ
ゲに入れち 保存食。仕事の間のオヤツ代わりに。

餅には栄養が多いき食べると 吹き出物が元氣うだした。とか皮膚
ん病気がなかなか治らんとか。なんさま餅一個が ごはんいっぱい分
はあるき食べすぎもいいとこじゃ。砂糖醤油つけちコンガリ焼いた餅
ん味 なんとん言えんち口水たらすしも多かろう。昔んしはそげな餅
でん自分じ作っててん 腹ひとつ食べんじゃつたそうな。ほんとで。



方言教談

2



お医者さんとの会話にゃ 方言が難しいち言うたきー もいっぺんならべちみろう。単語じ載せた分もあるけど 前か後に言葉がツナガルと 意味もゆう解るじゃろう。

ドテをツックズス…田畑などの土手を壊す
コマをシビク…こま回しん時紐じ惰力をつけるに急に撫でる
ユサンゴをセル…ぶらんこを押して
スソをドロビク…着物のはし《裾》を長くしたため土が付く
クタビレチノス…つかれてしまい腰を延ばす
アトカルオイノス…後から来て追い越す
キタミチウヘモドル…来た道を元に帰る 同じ事をくり返さない
ワロウナウ…藁で縄をなう《手でよりをいれてない合わせる》
ノシロウフム…苗代を作る《準備作業》
ハタケをオコス…畑を道具を使い耕す 土を掘る
クワジロジカク…鍬を使って苗代の準備をする
ソロバンジサンニュー…算盤を使って計算をする
アミューウツ…網を投げて広げて魚を取る
イニューカムグル…稲束を持ち上げて肩で担ぐ
ダシアイビカリ…皆が出し合って物を買う 金額段差のくじも
ヒンナモンノニユートウ…苦役 のんびり出来る共同作業
シバイヨスル…芝居を請けたり 出演したり行う
ヨバイニイク…若い娘の家にこそっと遊びに行く
ミソマメヲネスル…味噌仕込みの麴など材料を発酵させる
ションベンタゴカユル…小便溜めを汲み取る
ヒトムシュウトル…擦り寄って甘える
フネコギュースル…縁側などでうたた寝をする
モミューサブル…糸を道具で選別する
ウドンヌウツ…自分でうどんを作る
コヲスル…粉を機械や道具を使ってすりつぶして作る
モチューイズル…餅を煮立てた湯でゆがく

ダンゴウコヌル…団子を作るのに粉を練り固める
アシタズル…足を温めてほぐす《主として馬の足の手当て》
メガサムル…目がさめた
ハガウズク…歯が痛み 痛みでずきずきする
ハラガシボル…腹の痛みで差し込む
セナカヲカキムシル…痒さで背中を爪でひどく掻く
コゴツーナラブル…文句ばかり言う 次々と
マミューコロガス…豆の選別に転がしてより分ける
ツツ ベロ…つばき 舌
アシウヒコズル…足の痛みにはびっこ引いて
メヲヒンムク…目を大きく見開く
ツランカワウハグ…赤恥をかかされる
クジュウコヌル…文句をいいながら愚痴を言う
ナコウヒキシヤク…仲のいいのを妬みせっかいをする
ダルーカクル…下肥を散布する 追肥にする
チチュウスワブル…乳房に吸いつき飲む
マトゥモモグル…股を手で障り愛撫する
アシウタゴカス…足の筋や筋肉を痛める
ヒムータクヌル…紐を引き寄せて束ねる
テイジョウハリカエ…散髪をする 理髪して
ウワシンドウシタ…理髪してきれいになった
ヤマニヤクウダ…火を飛ばして他所の山に火が入る
ムギメシガスエタ…麦飯がイタンデ腐敗した
ドブロクガタギル…家で作った酒が発酵して
ツノジツキホイダ…角で穴をあけた
ワヤクスルベベンコ…悪戯する牛の仔
ダマニタネツケ…女馬に交尾させる《まわり駒が来る》
タニューウシナウ…種が流れて無くなる 芽がでないまま
ナエガナガレタ…雨などで芽が出ない
キラスハメシドロボウ…美味しいと食べすぎるから

ブエンヌカイソコナウ…生魚を買わずじまい 買い忘れ
カンブクリーアラレ…紙の袋に小さい角切り餅の煎ったもの
ヒオコシフスボル…竹製の火起こしが煙りにいぶされ
ワカヨメンケムリナミダ…泣きたい嫁の風呂たく煙り
ヨダキーヨナベ…疲れて大儀な夜の仕事
フツバタケ…よもぎが出来る畑
スギナタ…つくしの出来る田んぼ
ハタクリマワル…足股をひろげて遠慮なく
オトシンアラレ…ぼけっとの中の角切り餅の煎ったもの
ナスピンツキアゲ…茄子の天ぷら
コビルンジリビヤキ…おやつのやわらしい火焼き餅
ミナクチンワクド…田んぼの水口の蛙
ヒコズリンハナオ…はまの低い下駄の鼻緒
ヒリョウヲフッチ…肥料を追肥 撒く
ダイコォヒイチ…大根を引き抜いて
イデッサラユル…井路を掃除整備する
イトガムツバル…糸がからみあう
オビガタクナル…帯が皺に重なりあう
スコドンヌサラユル…失敗した事を何回も言われる
キビショガアトビク…急須のついだあと滴が落ちる
アメガヤミフウガイイ…雨が上がりいい按配
ツクシガピッシャグ…熟れすぎた柿がぺしゃんこに
ヒネリツブス…指先でつまんでつぶす
ツララオヒキモグ…つららを無理に取る
ビワヲアヤス…びわをもいで落とす
コキビヲアヤス…こきびを脱穀収穫する
タマガッチシビル…吃驚した瞬間もらす
サゼコム…まとめて入れる
モミガロウヨスル…糲ガラを集める
ミズッシカクル…水を引いてくる 田に誘い込む



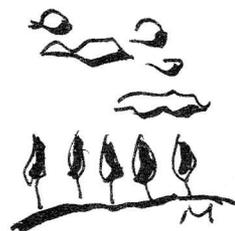
コドモガシカブル…子供が夢でも 遊び夢中で もらす

ちっと人間の体に関わる方言ぬ 拾うち見るとけっくしゃある。

クラガイアタマ…だ円経の形をした頭
ツブシ…足の中間の屈曲部分 物をこわす
アド…かかと ホユル…勃起する
ミミタブ…耳の下半分 料理の柔らかさの目安
ムコウツラ…おでこ 額 シシバナ…大型の鼻
ホオガコケタ…痩せて頬が落ちくぼむ
カサンツゥ…吹き出物が固くなる サラケン…頭の上部
メツボ…注目される ウソバ…親知らず
クチャカマシイ…おしゃべり ワニグチ…大きな口
ウワグチ…上向きの性器 サネタカ…陰核が高い
クワンザン…陰毛のある場所 カゼフキ…陰毛の少ない人
ミルクタンク…乳房 カゼトウシガイイ…ふりきん姿
ムスコ…男の性器 ムスメ…女の性器
オオワリ…大きな外陰部の人 ユーロ…足の下半分の裏側
ドンノクボ…首筋の後ろ側 ダンゴバナ…大きく座りの鼻
アトゲツ…後ろに向いた性器 スポ…男の包茎性器
チョロムケ…少しめくれた性器 サキプト…先の太い性器
アカギレ…寒さで皮膚が割れる シモヤケ…寒さで皮膚炎症
シリビラ…お尻 ケツ…尻 マメ…女性性器陰核
キミズ…胃液を戻す ヘソノチャ…出来ないといえ事
デバ…飛び出た歯 マイカケベッピン…前かけの似合う人
クチジョウズ…調子のよいおしゃべり
ムツカシモン…理屈屋 嫌われ者 ヨイト…酔っぱらい
クンダリバナ…くだりがけ だんだん下がって

ノンポリバナ…上向いた鼻 ヒミンヅラ…恥ずかしがり
 シカメンヅラ…怒り顔 カスワライ…せせら笑い
 ナキベソ…すぐ泣く性格 ハラタテブクロ…スグすぐ腹たて
 カヤビキ…草で傷がつく アイソワライ…調子のいい笑い方
 ヤシボ…食い意地が強い タツ…勃起する
 ニガムシ…愛想悪い顔 ホユル…勃起する
 バリキ…元気 ヒューゲモン…滑稽な性格
 ギョロメ…ぐるりとした目 バナナ…男性器
 ナゲダス…差し出して自由に ハタビ…女生理の日
 ヒラクトウ…あきらめて自由に カンノンサマ…女性性器
 チャ タバコタバナー…飲みなさい 飲んでください
 テボン…手で盆のかわりに テクノボン…手で盆の代わり
 テコボン…手が盆の代わりをする
 サカル…交尾する アセボ…あせも
 ヨボ…弱々しい性格 サンドビュー…三食ついた仕事
 ヨローチ…皆一緒に カエリシナ…帰りがけに
 アブー…餅 キモガイル…胸焼けがする
 シヤ…たまたま 間違えて うっかり
 アブク…泡 ヨコシ…横向きに 横にする
 カグ…取り除く 削り取る ホケ…湯気 蒸発する様

.....
 人間の姿にもいろいろ呼びかたがあるごたる。それでんじっと聞
 いちよると 何かほんわか温い感じがせんことでんねえごたる。
 それが方言じゃろうち思う ちった違うごたる言葉でん 使うし
 が通じ合うちよけりゃ それじいいんじゃねえ。こん頃ひよんな
 流行語よりか 優しう思えちならんがな。



古い唄新しい歌



思い出に残る方言『ハリコミナーエ』

コンメー時に親に死に別るるな一不幸な事じゃが。昔ん田舎じゃ
ちょコットン病気デン ヤラト介抱も看病も出来んじ命がノウナツ
タ そげんしが多い。残された子供はそんまま一緒に イノチキュ
ウサルリゃいいほう。テーゲーニャ親戚んしに預けたり ひじーな
他所んしにヤルそれも仕方なかった。兄弟ばらばらに。

おみつも 叔母ジョウかて一やられち行くコチーなった。近所ん
しが見送り来ちくれち『ハリコミナーエ』……元気で頑張りなさい
辛抱せにゃ仕方ないじゃろうから……運が悪いな一コラエナー』
そげな気持ちが現れた言葉ジャキ 言うしも言わるるしも辛く悲し
い。どうにもならん別れん場所ん風景。

引き受けた叔母ジョウデン フウいいはずはネエケンド今ほとに
かく何とかせにゃん ヤリクリサンニューじゃつた。連れち帰りゃ
家内も多いしこ若嫁ごもオルキー気を使う。同じグレーン孫がおり
ゃ尚更心配も絶えん。おみつも覚悟は決めちついち行くけど 先
ん事ぁどげーなるんか。コンメー胸う痛むる。

人並みじゃクルワルルシ過ぐリゃ妙な目じ見らるる。じっとコン
モナッチいつもビセクビクしよる。

泣きて一夜もある 甘えて一時もあるがそれも我慢せにゃならん
き。そんうちチツタ知恵も出来たごたる。要領もユウナッチ近所ん
しの同情もあっちエート 一人前ん人間扱いもシチモライで一た。
頑張っちょきゃんソレモ慣れた 自分ワ運が悪いんじゃきこれ以上
は下はね一。ここじハリコミナーいいんじゃ……くそ一負クルカ負け
ちなるか。別れ別れん兄弟といつか一緒に暮らサニャーち 頑張る
気持ち心が 『ハリコミナーエ』ん意味もわかったような。

『しょわーねーき』

雨が降るきー今日どまヨコイヨルカンシレン。けんど何の連絡もネットコルーみると サカシインじゃろうケンド苦になる。苦勞がついち回るごたるイノチキうしよるき 時たま来た時にゃ話も聞き愚痴も 腹ひとつ言うち『これじサッパリした』 笑顔を見するのん心配させメーチする 精一杯ん心くばりかん知れん。

好き好んじ嫁に来たんジャキ覚悟は出来ちよるじゃろう。それでん堪えらるる事と違う事もある。そりー甘えち絶え忍ぶ優しさが自分ぬ苦しめもシチョルごたる。言いてーこたー言うちその場ん解決が いいんじゃが世の中旨くいかんもんじゃ。理解しようと思ん旧態依然としたイノチキが 妙に邪魔もしよるごたる。

いっとき便がネーキ心配したんじゃが ドゲーシヨツタンカえ。風邪うヒイチ寝るわけにもいかんき 仕事ぁ続けちセツカツタ 口に出したそん声が嫁はいつマジモ嫁…なし家族ん中に入れチャランのじゃろうか。自分の娘が他にカタジイチそこじ ドゲナ目に合う事う考えたコターアルンカエ。ちしみじみ思うともう。

『ショワーネーキ』 そん言葉がもう身に染みチータ今ん暮らしが 半ば諦めん中に美しう咲いちよる。せめてウチに来た時ぐれーは親と思い甘えち のんびりするがいい。苦勞した惨めなイノチキを糧にしち 残りん人生が幸せならソレモイイジャローキ。のや。来たな…ショワーネーナ…顔見合わせち笑う刹那が幸せじゃろう。

明りい前向きなだけにイジラシイけんど ソゲナ巡り合わせん世と思ゃこれも いいもんじゃろう。人の出会いと支えがあるき本人な 他かる見るゴターネーゴタル『ショワーネーキ』に ホットする人間模様が今日も香る。元気が『ショワーネー』ち言わするんかん知れん。

『クルワルル…思ゃこす』

『お前どう早うイナニャ暗うなるど』『ショワーネーキ』 大人が言うてんトジロキモセンジ遊びよる。怒るしも思ゃコスジャーに人ん気持ちもワカランヤツンジョウジャ。ちった諦めち田に荷物乗せに行つたが 苦になっち急いじへモドルト案のじょう まゝ遊びいच्चよる。『ヤンドドーマァ遊びヨンノカ フントモウ』

近所んしがマルキリ自分カタン子のごつ 怒りタクジッチ言うこつう聞かんと無性に腹がたつ。親かる怒らるるはずじょ ちそんな時にゃ思うが 家に帰っち怒られヨリヤシメーカチ思うと ムゲネコサレ。ソゲン人間の暖け一気持ちちが回りにあるき 子供んやつも幸せな事じや。

暗うなった壁なしじ泣きよる子がおる。『ドゲーシタンカ 喧嘩したんか しょうがね一奴じゃ負けたんじゃろう』『…………』『早う家ん中えへーラニャ風邪うひくど』 『ホタッチョイチくれな一』 家ん中かる大けん声じオラビヨル。どうでん使いを言うちやつたに忘れチョツタたる。

遊びざかりん子供じゃもん 時にゃソゲンコトモあるわい…聞くとこんだ同情しち味方うしちくるる。『なし忘れたんか』『…………』『もういいすんだこた一仕様がね一き キナー断りう言うチャルキ』 隣んしのお影じ親も笑いて一ぬエートコラエチ 『今晚は飯う食うなや』 親も引っ込みがつかん所い助け船じホットする。

クルワルルな一良い事じゃね一が 皆が見守る中じ育つ子供たちは幸せ。自分の子のごつ怒ったりする クルワルルのん甘えかん知れんが 親も通つた道ジャキゆう解るんじゃろう。よそんな子もいい子になちもらいて一 のや怒ラレンゴツしよや。又遊びいくりゃいいわ。窓かる『おおきに』 汚れた顔が笑顔う見せた。

『なんで ゴメンナ』

久しぶりに働きに行っチョツチカル 帰ちきた日はイイアンベエに雨じつた。何しち食ベラシュウカ あれも話して一けんど昼間かるそれも出来ん。忙しう行き来するぬ一見ち婿じょうも 何か声うかけち話して一けんど。チョコット『元気がよかったか』『うんあんたも』 ち それだけ言うと忙しいもんじゃき。

『ちった一瘦セタンジャネーか』『なんで…』 そんくれ一言うと涙がコボルルゴタル。冷て一布団じ毎晩気を使うち寝たに 帰つた晩なオジーような 真剣抱きしめち欲しいけんど。手がチット触れたら女ん敏感な肌が ぽっと燃えよる。冷え切った尻がズキンち動くような そっと温もりが近じいちくる。

腕う廻されち引き寄せられた体が 待つん間もモテレンごつ動悸を高鳴らせた。『ゴメンナ 今丁度悪いに』 『…………』 静寂がチット一続いたが 次ん瞬間両手が白い肌を真剣抱きしめた。冷えた体に温もりが伝わち夢んごたる。『無理うションノジャネーか』『仕方ね一ことオランキ1人じせにゃ』

そつと乳首うマサグッチくるもんじゃき 全身に火花が飛び散るごつ伝わる。『早う帰りたかったが忙しいもんじゃき えーと今日つうじ帰ったんじゃ』『嬉しい…………ソレジャーニ』『そげんこたあドゲーデンイイ』 何か言いて一ぬ一どうにもならん気持ちちが。『又明日行かんならんき』『ナンデ…………』 言いて一ぬヤメタ。

働かにか食うちイケンキ仕方ね一今 辛抱せにゃショウガネエ。『なんで』『ゴメンナ』も心が通うちよりゃ 嬉しい言葉でんあるき 一晚でんしっかり抱かれち明日は機嫌ゆう 送り出すのん妻ん務めじゃろうし幸せに結びつくき。



『おごっそんになりました』

『あいたらイッパイヨンジョクレ』『あいチョルで早う来りゃよ
かったに はい入んなぁ』 もらい湯が多かったき毎晩じゃけんど
隣んしん 風呂をカリに来る。もう長え付き合いジャキ遠慮はねえ
が 『親しき仲にも礼儀……』ち言うごつ ソカァキチンと弁えち
よつち オオカタ入っちシモウタ頃に行く。

それでん若嫁ごなんかは入っちょらんが ソリュウ待つちよると
呼びにこらるるき そん兼ね合いが難しゅうもある。『イッパイ』
沢山の意味もあるが 全部皆ち家族ぐるみん 意味もある。普通に
聞くと食べ物んごたるが それだけ大事なもんでんあり それを共
に使う優しさ暖かさもある。

『かんワイイナ クビユウナ』 若い嫁ごが気を効かせち聞きに
くる。婿じょうが言うたんか義母が義父が指図したんか それとん
本人が世話になり一番頼りにデン出来る 隣んしにセメテンノ気持
ちなんか。『丁度いいでオーキニ まぁ入っちょらんのじゃろうに』
『いいことウットドーまあ仕事が残っちよるき』

そう言うたもんの遠慮シチョルカンシレン そこらへんの薪もん
ぬサデクベチ 火起こしじ吹いた。パッと火がちーち煙りが上がり
燃えでーた。風呂釜ん片ぐるがチット熱くうなった。『ありゃすま
んなーチットジいいで』『ゆっくり入りよ』 煙りが目にシュウダ
ンカ 涙がぼろり落てた 煙いだけじゃねーじゃろうが。

人ん気持ちが通い合う裸の湯殿じゃき 『おごっそんになりました
…』ち言う お礼の意味もゆうわかるごたる。『まぁ寄らんな』
たまにゃ寄っち茶をヨバルルと そげなナカメー嫁ごどうも入る。
キサネーコトモネーヨーナ隣近所が 時にゃ在所んしより世話にな
ちちしまう。夜は更けち星が美しい。

『お観音さま』

『今日は お観音様の検査と』 用事があっち来たらオランキ親父に聞いたらそげ一言う。はじめんうちは観音仏様ん 何か検査をするンジャロウチ聞き流した。お観音さまは現世ん厄よけうしちくるる 有難え仏様ち聞いチャオル。帰り道じユウ考えち見ると 検診車が公民館の前に来ちよる。

方言にゃこげな 微笑ましい情愛ん込めラレ Chol 言い回しが多い。女性の性器には荒々しい呼びかたより こげな謎と夢がある言葉に置き換えち 呼ぶのんエエらしいごたる。たしかに外目にゃはつきり見えんじ 黒々とした毛の裏側に秘められたような 観音仏と言われるに最適な呼びかたカン知れん。

惚れ地藏仏があるが『好きな人に思い叶わすために仏身を削って 灰をかける』 と言い伝えられち今も削り跡が残る。その姿も見方じゃ女性の性器に見えたり 男根に見えたりシチ夢ん世界に誘われる。人間の子孫を残すためにゃお観音様に ご活躍に一途の期待がかかるだけに、大切にしてえ心もこもっ Chol ンジャろう。

決まった人以外は立ち入り禁止ん 立て札があったチ引き下がった話も聞いた。昔しゃヨバイがあっち村ん若えしが娘ん寝床に ずりくーだら『今日は丁度悪いに』 と。世の中ユウシタモンジャち思うた。そんまま無事にすんじょりゃ嫁ごになった そげな話も多かったけんど。

感謝する気持ちがあるきヒョイトスリャ いつも思うちよる気持ち がそのまま『お観音様』 ち出たんかん知れんが 聞いてん響きんいい方言じゃき。うっとりしち帰り道あれこれ想像しよると コイサドマ久しぶりヨダトウカち 弾んだかんしれん。誰でん腹う立つるごたーねーきナエ。

正に残る方言
伝承民話
史実



伝承民話 『でけもんの神様』

小原ん市園ち言う所りい『市本様』ち言うち石じ作った社があった。そりゃー昔かるゆう効く『でけもんの神さま』ちゅうち とおてん人気ん神様じゃった。よそからでんフトーにお参りしに來よったきいつでんお礼ん旗がいっぺー立つちよつた。どげんこげんね一賑やけえもんじゃった。

毎年お盆の16日にゃ四国かる 盲人の僧侶が來ち社ん前じ火をてえち 炊くかたじ一琵琶をひいち お経をあげよると白蛇が出ちくる。じゃけんどお経が終わると 時のめーのう社にいんじしまう。そげな祭り行事が続いちよつたんじゃけんど 昭和31年のお祭りん時に火の中え 白蛇が落ちくうじしもうた。

お坊んさんがいそいじ拾いあげち 社ん中え納めたけんど昭和32年かるは お坊んさんも來ちくれんし 白蛇も火傷したんか どげーなったんか訳あわからんごつなつた。淋しい市本様になっちしもうた。ご利益もあっち皆かる大事にされよったけんど だんだん参る人も少のうなっち 時ん流れは無情なもんじゃ。

『手足荒神』

新町ん角に小せえ社があっち『手足荒神』ち 近所んしたちが守ちよる。参る人たちん姿もゆう見かくるき ご利益もあるんじゃろう。何でん参勤交代ん頃に肥後ん殿様ん行列んしが 馬を過ちじ痛めたき谷村ん大將軍に参ったら すぐゆうなつち言う。そん時お礼にちこら社を作つたとか。感謝の思いがほかんしたちにも分けたかつたんじゃろう。そばん道が昔ん本通りじ『古道…フルドウ』ち言う。

『洪水に残った家』

その昔辻田堤が切れたことがあった。土と石じ造られた丈夫なもんじゃつたけど 長え年月ん歩みにゃ移り変わる条件じ 地質にん変化もあったごたる。そげな事もあっちジワジワ押し寄せち 大地まじ揺する音と共に崩れで一えた。ちとづつ流れちよつた水があっち言うまに ほどぼしのごつ。

やんがち土 石 立ち木かるそこらあたりんゴソーまじ。押し流すもんじゃき泥水ん中は 何があるんかわきゃー解らん。勢いち一た水は南進直下ん家やら物いれやらを ひとなめにしながら押し潰しち。あたりん木やらんも人も花も そこらじゅうが一面海んごつなっちしもった。見るもむざんな哀れこんかたね一ごつ。

こん激流土砂は大田川う乗り越えち そこらじゅうん田んぼも跨いじ 土取んすぐ裏まじ着いた。所が高えもんじゃき行き止まると こんだそん勢いじ左りまがると 東し向いち一気に流れち行つた。そん水流は遠心力んごつスリバチ状になっち 小舟あたりにゃ激流が遠巻き流れち 床ん下に入ったぐれ一じゃつた。

そんまま野津原まじ流れち途中ん被害も あれこれあつたごたるが堤直下ん被害は で一ぶん多ごつうち言いよつた。あれかる何年たつたか 改良もされちそん後は被害も聞かんけど 災害は忘れた頃にやちちくる ち昔かる言うかる気をつけたが いいじゃろうな。

『久住系列にあつた寺』

昔ん地福寺があつた場所は久住山の流れん 末端にある所ち言う。そん頃久住を司る天狗が錫杖をふっち そん響く末端に堂を立てたちゆう。大田んここにも造り川を隔てた向かうに 鶴見山かる流れ出た土地ん末端にも天狗が現れ 川をはそうじ世を語り暮らしう按分したち言う。

そき一南側ん方かる阿蘇山の流れが せまっち来ちここじ3つん流れん流末が集まったこち一なる。じゃが何万年も過ぐるうち一弱捨強存ち言うごつ 世の仕組みも移り変っち いつん間にか人ん心もそれに 合わせち変わっち行っただたる。ここに寺が造らるることも古くからん 因縁運命じゃつたんじゃろう。

天狗が時より集まっち話すにゃ 『俺方にゃ温泉があるど』ち『タヘラク』 言う。けんど温泉が果たしちなんもかんもいいんか それも考えもんじゃち言う天狗もおった。そりゃーのんびりさるる代わり寒さにゃ 弱くなっちしまっかる困るち言う。日ごろかる鍛えたかるこす 世の中調子ゆうゆくんじゃろう。

『戦中疎開』

戦い激しうなった昭和19年にゃ 沖縄かる疎開ん受入れが多うなった。当時ん区長は男手の少のうなった自分たちん区に 世話をしながら戦争を乗り切った。どこも馴染みにき一けんど小屋やら 物置があいた所じゃ受入れち 厳しい食べ物も分けおうち食った。働いた事んね一しもくじゅ言うちよれんき。働きもしち飢えをしのんだ。

子供も手足う荒らかしち血が出るやら たまがるやらん生活でん心が溶け合うち。苦労もあつたのおこらえち頑張ったが 中にゃいがみおうたり喧嘩したり。それも戦争があつたき一じゃが。世が世ならもっと贅沢もと思ふしもあつただたる。それでん区長は懸命に面倒見ち皆がふ一ゆう 出来るだけ明るう仲ゆう暮らすごつ。

戦争がすんじ帰つた沖縄かるも定期的に 感謝の気持ちが綴られた手紙が来る。招待されち遊びに行くしもあつただたる。そのまま全く音信普通んしもあつち 人間の気持ちも多種多様の模様が。あれかる50年もすげた。心に残つた傷痕の善意がどんな形じ今も 引きずる哀れな時代でんあつた。

『山峰経塔』

西陽を受けち傾斜ん山肌え大乘妙典の経塔がある。甲斐国に関わるこつ一書いた文字があっち 山峰じゃ経塚ち言う。経地ち言い経文と法衣が箱に納めちやるち 言われちよる。快洗和尚が出世しち故郷に納めたち 伝えらるる山峰生まれん人。京都じ修行中に甲斐ん国に要請されち武田信玄の菩提寺じある⇒恵林寺に入った。『心頭滅却すれば火もまた涼し』の 名言ぬ残したち言わるる。

武田勝頼が織田信長に改められた時 恵林寺ん禅僧快洗が火の中じ読んだ 名文じある。経塔んすぐ近くにゃさまざまん塔群もあり 昔1600年代かる30年期ぐれ一に 建てられちよる。信仰する人たちん気持ちん現れじゃろう。現世が安泰じあるごつ願う 文字があるのん優しい思いやりがあってんこつか。

交通ん要所じゃつたんか脇に建てち 皆ん心んより所にしたんかん知れん。地域ん人たちん無病息災が祈られたんが ゆう解る。そん頃は 大野からんルートでんあつたき 河野《コウノ》ん流れをくむしが多い。故郷にしち定着したんかんしれん 讃岐守ん《1579》墓石もある。

『法泉橋あれこれ』

昔諏訪村と野津原村ん境に法泉寺ち言う 所があっち橋がかかちよつた。古うなち掛け変ゆるこち一なつたが 時ん村長がほかん村んしに笑われちやらんち 思い切ち立派な橋ん計画うした。それが今ん法泉寺橋じゃつた。熊本県道は明治に開通したが橋がちよいと粗末。それもそんはず谷が深えき銭がよき一いるもん。

大正2年に今ん橋が工事う始めた。西大分かる運うだ白石やら石工も泊まりくうじ 毎日工事は進んじ賑やかじゃつたち言う。

そん時い使うた石風呂も今も残っちよるが 時代ん移り変わりが頷ける。当時ん金じ2万円の総工費じゃそうな 三浦村長が『諏訪ん威信にかけてん』ち 旗振りながら金策かる工事ん進捗にまじ 心くばりしたもんじゃき 村民も応援したちいよった。

当時ん諏訪村は竹の内まじじ 柿野かるは野津原村じゃつたき 法泉寺橋ゃ諏訪村ん玄関口でんあったもんじゃ。熊本県道《往還とも言われよった》でん石組された橋は 矢の原ん小岩戸橋 下詰橋と3つが 当時ん技法をそんまましっかり保存しちくれちよる。下かる見あげた景観なまるで精密機械じ造ったごたる精巧さ。

石が組み合わされた互いの力を バランスゆう支えおうち組まれちよる。工事をしたしが何べんも訪れちゃ眺め 満足した顔じ自慢話しうしよったち 年寄りが話ちよった。思い切り予算ぬかけち造った橋は 戦争にも不景気にも知らぬ顔しち 頑張っちよるな一先見の目があった そん頃ん政治家ん度胸と英知じゃろう。

『心まじ貧しうなるな』

貧乏しちよると正月が来てん餅もあんまり食えん。よそん子どもはいつまでん食うぬ見ると子供心は イジケルもんじゃが親が躰に気くばりすりゃ 子供ん気持ちも素直に従う心が育つもん。餅を食うぬう見ると背中ん子が欲しがるが ちょこっと背を向けちホカン話じ誤魔化す。子供ん気持ちは揺れ動くが。

じっと辛抱することがどれだけ情けねえことか でん貧乏はどこまでん抜けきれん宿命じゃき仕方ねえ。我慢する事ん力も出来たけん今ん苦労かる 大きゅうなったら抜けださにゃち自分にいい聞かせる。今日も我慢出来た満足を味おうたのん 貧乏じゃきこそかんしれんち別ん妙味も湧いたんじゃなかるうか。辛さに踏まれた花は美しく咲くごたるき。

『痒い所に手が届く』

女は強い昔かると言うけどそれじゃかるこす 人間が生き延びた
んかん知れん。どげな辛え時でん歯を食いしばっち 頑張り子供たち
う戦地に送ってん涙おこらえち 我慢もしちきた。夫に使え舅に恐る
恐る気を使う 姑にゃいびられながらん毎日も 耐え忍ぶだけん度胸
も備わっちゃつた。ずぶとうなんのん当たり前じゃろう。

いのちきが出来んき子供う犠牲にしたのん 間引き流産なんかも心
じゃ泣いち 家庭を守り皆の為にゃいつも下ずみん いのちきにも甘
んじちも来た。じゃき強うなったんかんしれんが 子孫ぬ残す責任が
身にちーちよるき 強うもなったんじゃろう。親父が何か言うのと従う
のん 痒い所りい手が届くのん母性本能が そげーさするんか。

そん代わり女ごしん痒い所りい手を指しくうじ ほっと楽しまする
なあ男しん役目。せいぜいこんくれーしか出来ん男にゃ やっぱ女ご
しん情愛が強さがうまいごと カバーしちくれよったんじゃろう。世
ん中は昔かると女が取りしきるんが 順風満帆んごたる。『ひみこ』ん
時代も男が女をもり立てたんが よかつたごたるきマトモかんしれん
。

天の岩屋に隠れた天照大御神も周りん賑やかさに ちょこっと覗い
たら力男に引き出された。誰かが導く時にゃ博学が効果もあぐる 人
も支えおうち女を立てる男ん度量は 幸せ人生の原点かん知れん。今
痒い所りい手が届かんごつなりゃ やっぱ世の中おおごちーなるかん
解らん。それだけに女の大事さも見直さるるごたる。



持ちつ持たれつの世の中じゃき助けあいながら
上手に 痒い所うかいちもらうのんいいんじゃね
え。それが家内安全無病息災ち まあ言う所じゃ
ろうなえ。元気じさかしいんが一番じゃこと。

『踊りを伝えた影の人たち』

直入文化が浸透しちよつたあたりじゃ 盆踊りは楽しい行事ん一つ
じゃき 夏ん草手が済むと短え夜を利用しち 踊りん練習も始まる。
口説き唄が年寄りから教わっち若い娘たちが 冷やかされながら唄う
横顔にゃ暑さに 日焼けした苦勞ん跡がしのぼる。それでん若さは
いいもんじ時折ん男しん声がすりゃ 胸も高鳴り声も弾む。

盆の16日おぼんかて行ったら 茄子びきりかけフローん煮しめ
ソレエヤソレエヤ……囃子言葉が夜空に流れち若い声が 川向こうん
家まじ聞こゆるごたる。熱心に口説き唄を集めちおったしが 顔を出
えちくれた。今まじ知らんじゃつた唄やら そんな唄ん意味なんかがゆ
う解るごつ 説明もしちくれち納得が出来もした。

『こいさ踊りゃ練習しちみるな』『うっとどーまゝ覚えちよらん
どげーしゅう』そこはそれ若い者同志じゃき 断わると損ぬしたご
たるき声あげたんは 賛成した証。わいわいがやがや言いよると年寄
りも 顔出えち『お前どう踊っちみよ見ちやるき』『見らんでんいい
で来なんな』『そげー言うといちべー見てーのー』

やりとりん年寄りと娘たちは仲んいい証拠じゃろう。病気したちや
心配しちくる。いい話があるちや自分の事んごつ悦うじくる。心
が通い合うき遠慮もねえ。困ると親に言えん事でん相談しちみる。人
の暖かさが情けが村中を包うじよるき。『ほんな夜食持ちちくるな』
『や 夜食持ちちこんと見せんのか』『そうで…』

星空に涼しい風がサート吹くと肌をすり抜けち 気持ちいいんか目
を細むる。湯上がりん薄化粧も汗じ溶けたか 女ごらしい香りが仄か
に……。着物ん裾があらわに擦れて夏ん夜は 更けち行くのが惜しい
ごたるが。今年ん盆も賑やけーこちーなるじゃろう。たばこん煙りに
ムセたんかクシャミが一つ 飛び出えた娘ん可愛い口もとかる。

『即身成仏した高僧』

岩山をくりに一たほら穴に今は昔ん 悲しくも哀れさを誘う物語りがある。悲願をこめち自分かる入り念仏う唱ゆるが 『明かりが消えち念仏ん声が聞こえんごつなつたら 穴をふさぐよう』言われた弟子が 3 7 21日過ぎたある日に そんな声が聞こえんごつなつち穴を粘土じ塗つぶしち 祠をつくり経をあげち冥福う念じた。

一頃まじわ近所んしたちが周りん掃除 参りの線香ん煙りもあつたが それもいつしか消えち山も荒れ果てたごたる。そげな話う知つちよるしも少のうなつた。小高い頂きん松に風が吹くと もの悲しい音がしち悲願の高僧ん思いが 人々に知らせちよるような。時代が変わり現世に幸せ念じた今も伝わる物語。

『盗んだ者にゃ厳しい掟』

ナバを盗むとそんな罪はホカンもんより重いち言う。そんなはずじゃ物になるまじ長え年月がかかるき。一生懸命に作つた拳句に明日は取り入れち 竹田え売りに行けるる。嫁ごにも子供にも何か買うちられる。そげな夢が頭中を飛び回つち目がさめた。山にでかけち見ると何と根こそぎ取られちよる。涙がポロポロ流れた。

夢も喜ぶ顔も水ん泡に消えちもう死ぬばっかりに そんな時まっ白い髭んしが目の前に現れち『お前が死んだらあとん者はどげーするんか死ぬ気がありゃーもっと頑張れいいこともあるじゃろう』 ぱっと消えた。思い直しち家に帰る途中じ考えう変えち また頑張ろうち思つた。それもあつちかナバン出来もゆうなつた。泥棒にもむげねこされち…同情も出来るこちーもなつた。哀れ人間でんある。

まものう泥棒がつかまつち便があつた。罰金ぬふと一なこつ取られちナバも 無事い戻つちきたきほつと安心。お告げんごつハリクウジ働き ナバン出来もゆうなつた。

『お接待ほどこし』

見返りを求めぬ施しに…お接待がある。物貰いがゆう家ん前に立ち鈴ぬ鳴らし お経を唱えち物乞いをする。身の飢えには苦労の話もあるじゃろうが 見返りゝ求めん施しこそは尊い。どげな事情か知らんでんよっぼどん訳があるんじゃろう。ちっと気に触ったち土用ん暑い日のツジに 地べて一座らせちサーベルじ叩き説教する。

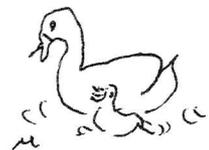
あぶら汗が流れち言い訳するがそれも聞いちゃくれん。えーと何時かが過げち追い立てられたが ひこずる足にゃ血がにじんじ痛ましい。木戸口ん下じ裏かるこそっと持ち出えたニギリ飯ゝ にぎらすると『木陰じ食いなー』優しい娘の気持ち。押し頂いち食うそんしの顔にえーと 恐怖かる抜けた安心な表情。

娘が年頃になっち嫁ごに行くこちーなった。何にも出来ん貧乏でんいいち迎えちくるる相手。嫁入り道具に何か箱がぶらさがちよる。家んしも娘も知らんに一不思議なと 開けち見たらなんと絹の反もんが入ちよる。初夜に嫁ごん夢枕に立った一人ん僧が 『よかったな ぁあん時んお礼じゃき 幸せにな』 思い出えた夏んさかり。

見ち哀れに思うたき咄嗟にニギリ飯ゝ差し上げたまじん事。それじゃのに思わぬ所じご褒美に出会うなんか 考えもつかんじゃつたに。優しいそん夫婦はそれかるも施しん気持ちを大事に。家も栄えち子供もすくすく成長したち言う。四国じゃ盗みゝすりゃどげ一逃げ歩いてん 夜が明けち見ると前ん日ん所にやっぱ居ったち言う。

施しは心から出た思いやりじ はじめち伝わるもん。仕方なしに出すんじゃ気持ちが伝わらんし 思いも半減するもんじゃ。立場がもし反対ならち思うと施しん出来る幸せは

物や金にゃ変えられんきな。心ん中にある優しさは美しいもんじゃ。



米作りに苦勞した昭和初期の記録から 《昭和5年》

米の検査があり50俵以上の耕作者……《精農業者25人の氏名》

猪原作平……………	160	福宗	工藤松信……………	129	上詰
喜久田甚九郎…………	151	々	阿南牛五郎…………	126	福宗
三浦源太郎……………	150	々	姫野清磨……………	126	原村
橋山高次郎……………	145	々	岡松倉太……………	125	福宗
佐藤拓……………	142	々	久多良木武雄…	124	々
後藤幸太郎……………	141	竹の内	河野市太郎…………	121	辻原
大塚福松……………	135	入蔵	河内清二郎…………	120	竹の内
利光三郎……………	135	福宗	猪原清蔵……………	119	福宗
工藤三平……………	135	湛水	久多良木秀留…	119	々
奈須熊喜……………	135	原村	但馬弥三郎…………	117	々
佐藤由信……………	132	福宗	上田守……………	115	々
佐藤春吉……………	132	原村	久多良木孫作…	115	々
裸野花夫……………	130	福宗			

地区別では《上記以外に》 入蔵…14 吉熊…6 日方…1
 恵良…12 本町…3 新町…12 福宗…50 辻原…24
 岡倉…3 竹の内…33 矢の原…30 原村…35 下詰…16
 上詰…22 湛水…13 栗灰…3 今畑…5 太田…20

※ 今市村とん合併前んため 旧野津原村だけん記録。氏名や文字
 なんか全て記録のままに 使用しちよります。

昭和5年頃は…浜口内閣当時じ米価…一俵あたり6円28銭。
 昭和6年にゃ…6円50銭に、昭和7年にゃ8円20銭になっ
 ちよるごたる。

地区ごとん検査ん結果についち 次ん表をつく
 ったけんど 検査が厳しゅうでん熱心にしよっ
 したしん 米はいい点がついちよつたごたる。



米つくり検査成績 《昭和5年産米》 農業倉庫利用

部落名	甲	乙	丙	格外	計
福宗	35	3356	4491	282	8164
矢の原	15	2121	1672	139	3947
原村		2054	1569	133	2756
竹の内		620	1939	728	2287
辻原		65	1580	586	2231
上詰		805	1229	150	2184
恵良		551	1466	94	2111
入蔵		580	1163	227	1970
下詰		1063	757	121	1941
大田		945	842	105	1892
湛水	34	730	871	68	1703
新町		133	1372	118	1623
今畑		865	414	50	1329
塚野		63	741	240	1044
本町		391	556	69	1016
めぐす	25	237	549	113	924
栗灰		30	588	115	733
吉熊		66	432	209	707
岡倉		48	538	19	605
日方	5	148	164	86	403
胡麻鶴		55	167	46	266
羽原			103	10	113
合計	114	14926	23203	3708	41951

気を配り良い米作れば身の為ぞ 家も栄えりゃ村も豊かなり
お互いに本気で粃乾燥しませう。

あとがき

野津原方言集続編№2を ご愛読いただき誠に有り難うございます。多くの皆さんの支えご協力を頂き №2も限定100冊を発行出来 方言の温かさをきっと味わった思われます。

故郷の無形文化財である方言の温もりを込めて 方言文化《子供、生活》 戦前の思い出話を入れた…思いであれこれ 米値のうつり変わり それに好評を拍しました舞台劇も 記録に残しました。野津原の文化や歴史として大切に継承した 盆踊りの歴史 故郷の唄 歌なども 収拾中の資料もそのままに 生かしてあります。

心に残る方言は実体験を元にアレンジしたもの 又大分看護科学大学の先生方が『野津原の方言に親しみたい』 その願いをお聞きして 『老人と医師』との方言交流の参考にも ページを割きました。方言の表舞台で活躍する 馬子の五助さんは七瀬の里の名物男ですが 街道筋をリズムカルに方言を使って語る ストーリーには大変好評を受けているようです。

伝承 民話 実話は忘れかけた…知らなかった 聞いた事がある どこにあるのか 機会があれば訪ねたい そんな物語で調査員が地道に収拾したものを 組み立ててあります。会員が余暇に収拾するだけではとても 出来ない編集も多くの方たちのご支援ご協力によって今回も 限定100冊の発行が出来ました。

別冊には小学生 中学生向けの『参勤交代道に行く歴史ガイド』の 方言集も素人づくりですが発行出来ました。青少年が方言に親しみ故郷の無形文化財…方言の温かさを解ってもらえれば この上ない幸せです。

.....

野津原方言集 続編 No. 2

〈平成11年10月30日 初版……野津原方言調査会〉

平成12年4月1日発行 発行者…甲斐英行

野津原町今市小原 〈☎097-589-2807〉

事務局 〈☎097-588-0092〉

